

神戸観光局マーケティング情報 マンスリーレポート (2024年1月号)

2024年1月30日



KOBE TOURISM BUREAU
神戸観光局

1. 今月のトピックス

- ・ 2023年年間 全国の観光動向（速報） P.3～5
- ・ 2024年度観光庁予算の概要 P.6～12
- ・ 中国国際線 2024年末までにコロナ前80%まで回復の予測 P.13
- ・ 神戸観光局SNS情報 P.14
- ・ 今月号の注目数字（国内観光）OTAモニタリング P.15～17

2. 定点観測 ～観光庁など統計データより～

- ・ 延べ宿泊者数の推移（全国、兵庫県、神戸市）[推計値] P.19～22
- ・ ホテル平均稼働率 P.23

3. インバウンドに関する情報

- ・ 2023年月別訪日外客数 及び 各国・地域別の状況 P.25～26

4. 交通機関に関する情報

- ・ 関西国際空港・神戸空港の利用状況 P.28
- ・ 関空国際線就航状況・入国状況 P.29
- ・ クルーズ船寄港状況 P.30

5. 神戸市内観光に関する情報 ～神戸観光局オリジナルデータ～

- ・ 市内観光案内所 観光客案内件数、対応概況、国籍別対応状況 P.32～34
- ・ 主要市内観光施設来場者数 P.35
- ・ 所管施設入館者数（金の湯・銀の湯・萌黄の館） P.36
- ・ 神戸市内大型施設の主な催事情報（2～3月） P.37

- 参考資料集 P.38～

※観光統計情報については、統計の種類によって集計結果が配信されるタイミングに差が生じます。
本レポートではできる限りタイムリーな配信に努めてまいりますが、内容によって取扱い月が異なります。



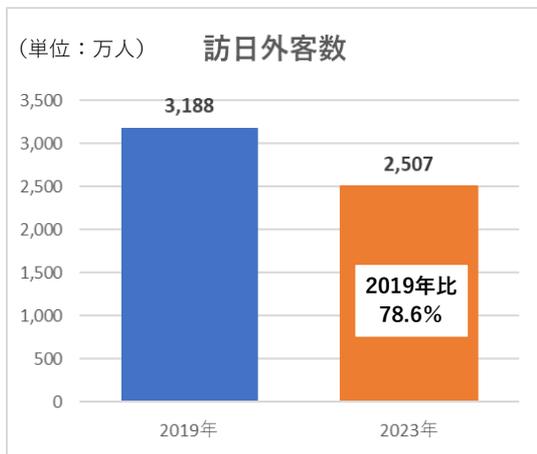
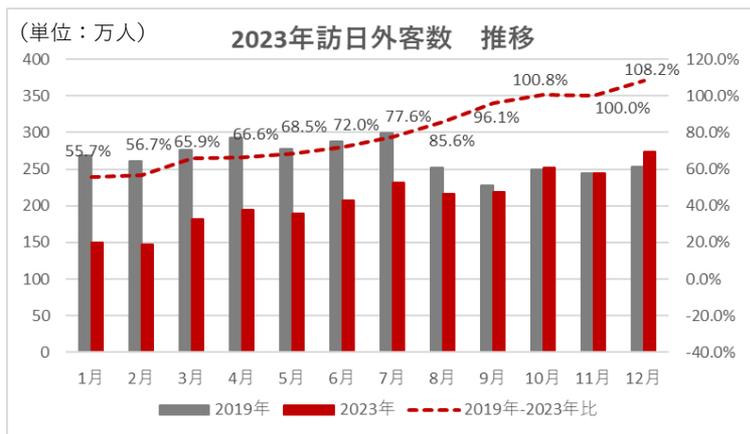
今月のトピックス

・2023年年間の各種観光統計が出揃い始めているため、速報値をご紹介します。

■ 2023年 年間訪日外客数

2023年計 2500万人を突破。コロナ前の約78%まで回復。

- ・2023年計 25,066,100人（速報値：2019年比78.6%）まで回復。
- ・2022年10月の渡航緩和以降、右肩上がりに外客数は回復。特に10月以降はコロナ前を超える勢いで回復するなど好調だった。
- ・国籍別では韓国やアメリカからの外客数がコロナ前の約120%となった。



国・地域	2023 総数			2019比 (%)
	2019年 1月～12月	2023年 1月～12月	(順位)	
韓国	5,584,597人	6,958,500人	(1位)	124.6%
台湾	4,890,602人	4,202,400人	(2位)	85.9%
中国	9,594,394人	2,425,000人	(3位)	25.3%
香港	2,290,792人	2,114,400人	(4位)	92.3%
米国	1,723,861人	2,045,900人	(5位)	118.7%
タイ	1,318,977人	995,500人	(6位)	75.5%
フィリピン	613,114人	622,300人	(7位)	101.5%
豪州	621,771人	613,100人	(8位)	98.6%
シンガポール	492,252人	591,300人	(9位)	120.1%
ベトナム	495,051人	573,900人	(10位)	115.9%

出典：日本政府観光局(JNTO)1/17プレスリリース「訪日外客数(2023年12月推計値)」
https://www.jnto.go.jp/statistics/data/20240117_monthly.pdf

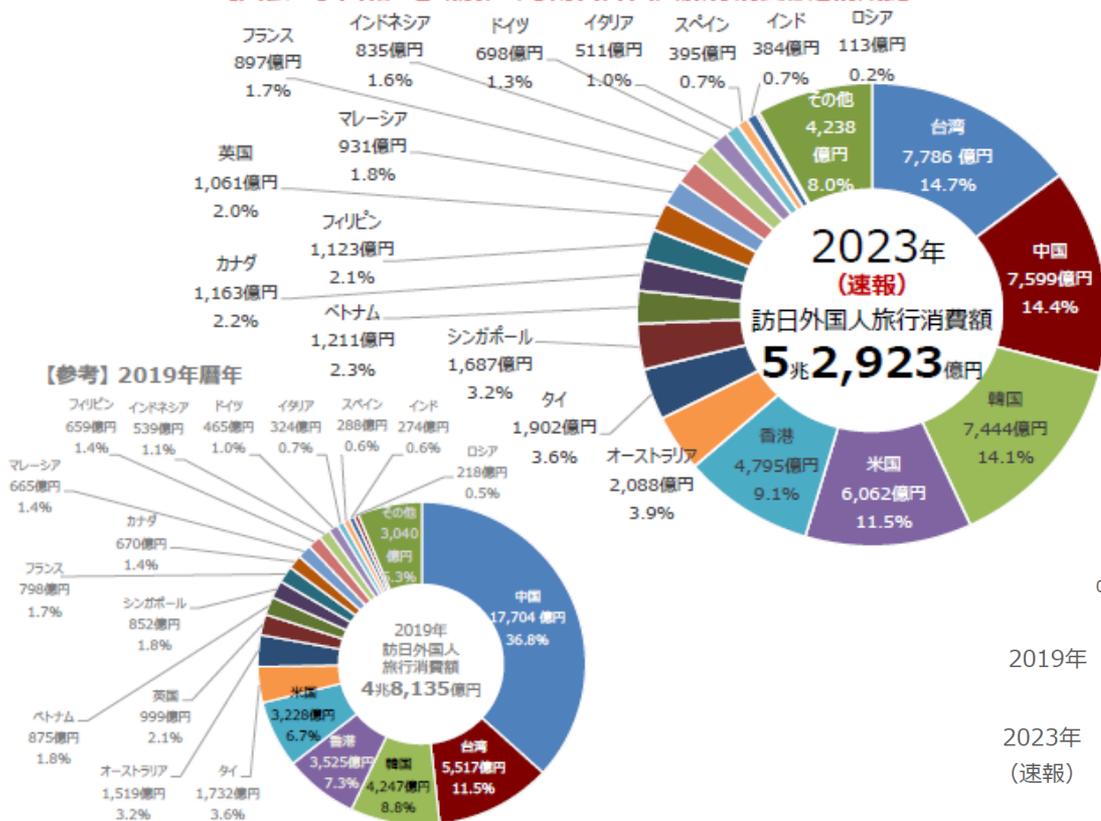
👉 例月の訪日外客数分析は[25ページへ](#)

2023年年間 訪日外国人消費額

2023年計 5.3兆円と過去最高。コロナ前を超え、2019年比約110%まで回復。

- ・2023年計 5兆2,923億円（2019年比109.9%）と過去最高を記録。
2019年計は4兆8,135億円であったことから、コロナ前の最高値を5,000億円近く上回った。
- ・2023年3月に閣議決定した「観光立国推進基本計画」における目標値「訪日外国人旅行消費額：5兆円」を早くも達成。
- ・消費額増加の要因としては、円安や宿泊日数の増加などだけでなく、物価の上昇なども起因していると考えられており、真に稼げる地域が増えたか、引き続き注視が必要。

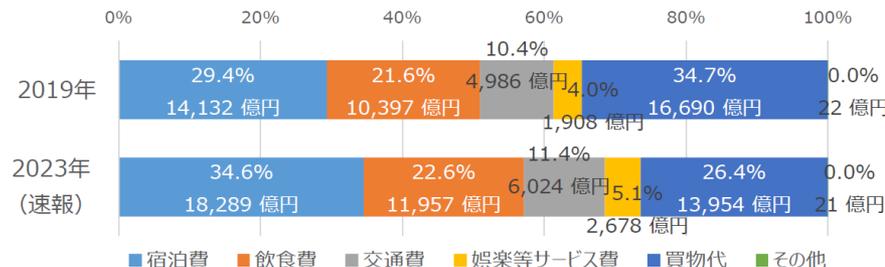
【図表1】国籍・地域別にみる訪日外国人旅行消費額と構成比



◀ 国籍別の動向として、2019年は「爆買い」が注目された中国旅行者の消費が全体の4割を占めていた一方、2023年は中国以外の東アジアを始めとした各市場の回復が急速に高まったこと、中国の回復の遅れや消費動向の変動により、各市場のシェアがある程度均一になった。

▼ 費目別にみると、やはり「買物代」が減少した。2019年には全体の34%を占めていた「買物代」は、2023年は全体の26%となった。

【図表2】訪日外国人旅行消費額の費目別構成比



出典：観光庁「【訪日外国人消費動向調査】2023年暦年全国調査結果（速報）の概要」
<https://www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/toukei/content/001718104.pdf>

2023年年間 訪日外国人消費額

- ・ 1人あたり旅行支出は平均21万1千円。
- ・ 参考：観光立国推進計画（2025.3決定）における、2025目標値 訪日外国人旅行消費額単価：20万円/人
- ・ 「観光・レジャー目的のみ」の集計では、1人あたり平均20万3千円と上記目標値を達成。
- ・ なお、観光・レジャー目的のみで、1人1泊あたりの支出が最も多いのは、中国（1泊：38,580円）。
- ・ 中国旅行者は、他の国と比較すると、引き続き買い物での消費が多い。
- ・ 観光・レジャー目的のみで、1人あたり最も支出総額が多いのはイギリス（総額：376,951円）。

【図表6】国籍・地域別にみる一般客1人当たり費目別旅行支出（観光・レジャー目的）

2023年暦年（速報）

（円/人）（泊）

国籍・地域	訪日外国人1人当たり旅行支出【観光・レジャー目的】								平均泊数 注		1泊あたり
	総額	2019年比	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等 サービス費	買物代	その他	2019年差		
										2019年比	
全国籍・地域	203,613	+31.1%	69,747	46,108	23,951	8,976	54,754	76	6.9	+0.8泊	29,509
韓国	101,398	+47.8%	32,805	27,853	8,902	5,504	26,240	94	3.6	+0.3泊	28,166
台湾	179,156	+57.1%	50,225	39,059	18,370	7,853	63,649	0	5.8	+0.6泊	30,889
香港	223,630	+45.3%	68,988	53,090	22,702	9,097	69,612	139	6.5	+0.9泊	34,405
中国	285,489	+34.9%	81,204	52,403	25,134	9,310	117,329	108	7.4	+1.5泊	38,580
タイ	191,541	+54.3%	58,733	42,961	27,307	7,424	55,078	38	6.5	+0.8泊	29,468
シンガポール	293,101	+54.4%	105,713	62,646	34,664	12,343	77,735	0	9.1	+1.1泊	32,209
マレーシア	228,372	+72.1%	73,462	50,389	27,157	10,019	67,342	3	7.5	+0.5泊	30,450
インドネシア	206,680	+48.8%	74,685	40,791	30,171	9,063	51,969	0	8.0	+0.5泊	25,835
フィリピン	198,513	+68.2%	66,146	39,676	24,778	10,567	57,344	2	7.5	-1.0泊	26,468
ベトナム	208,214	+43.6%	60,174	41,147	25,092	6,273	75,528	0	6.0	-0.6泊	34,702
インド	310,918	+74.4%	105,332	49,969	44,783	11,254	99,580	0	9.9	-0.9泊	31,406
英国	376,951	+49.5%	167,311	78,950	55,027	18,755	56,659	249	13.8	+2.3泊	27,315
ドイツ	333,922	+40.4%	148,450	79,498	53,433	11,257	41,204	79	15.2	+1.2泊	21,969
フランス	332,526	+29.6%	140,657	72,598	52,000	13,126	54,143	3	15.9	+1.4泊	20,914
イタリア	334,725	+49.4%	142,753	82,201	56,786	12,844	40,057	85	12.5	-1.0泊	26,778
スペイン	353,086	+53.6%	139,978	84,454	69,319	12,623	46,650	63	14.7	+2.0泊	24,019
ロシア	251,766	+44.6%	100,872	60,994	41,852	8,511	39,537	0	17.4	+7.4泊	14,469
米国	325,217	+60.2%	139,672	71,951	46,115	15,117	52,088	275	11.0	+1.6泊	29,565
カナダ	297,820	+59.2%	122,728	69,907	44,745	13,167	47,273	0	12.4	+1.2泊	24,018
オーストラリア	359,073	+37.9%	145,875	80,564	53,963	22,812	55,822	37	13.9	+1.0泊	25,833
その他	338,624	+51.3%	140,051	77,250	50,915	12,700	57,707	1	13.8	+0.3泊	24,538

※「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加え、ビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。

2024年度観光庁予算の概要 ①



2024年度 観光庁関係予算発表

- ・ 2023年12月 2024年度観光庁予算が閣議決定。2023年度比約1.6倍となる約503億円を要求。
- ・ 2023年度補正予算や復興枠も合わせると、総予算総額は約1,200億円となる。
- ・ 国際観光旅客税を財源とした新規事業などが立ち上がっており、今後観光庁からの公募情報を注視する必要がある。

2024年度 予算総括表

(単位：百万円)

	6年度 予算額 (A)	うち国際観 光旅客税財 源充当額	前年度 予算額 (B)	倍 率 (A/B)
(1) 持続可能な観光地域づくり	5,163	2,380	4,781	1.08
地域における受入環境整備促進事業 (注1)	1,374	80	2,143	0.64
観光地・観光産業における人材不足対策事業 (注1)	180	80	150	1.20
持続可能な観光推進モデル事業	100	-	150	0.67
ICT等を活用した観光地のインバウンド受入環境整備の高度化	990	990	149	6.63
全国の観光地・観光産業における観光DX推進事業	1,130	680	900	1.26
世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業	400	400	50	8.00
DMOを核とした世界的な観光地経営モデル事業	150	150	200	0.75
通訳ガイド制度の充実・強化	67	-	66	1.02
健全な民泊サービスの普及	100	-	100	1.00
観光統計の整備	673	-	673	1.00
前年度限り	-	-	200	皆減
(2) 地方を中心としたインバウンド誘客の戦略的取組	43,946	37,913	24,691	1.78
地方部での潜在促進のための地域周辺観光促進事業	563	-	563	1.00
戦略的な防日プロモーションの実施	12,542	7,300	12,356	1.02
MICE誘客の促進 (注1)	908	700	213	4.25
円滑な出入国の環境整備	7,201	7,201	3,648	1.97
円滑な通関等の環境整備	2,491	2,491	737	3.38
空港におけるFAST TRAVELの推進 (注1)	1,560	1,560	1	1217.80
地域一体となったインクルーシブツーリズム促進事業	80	80	-	新規
国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業	1,750	1,750	180	9.72
ストーリーで繋ぐ地域のコンテンツの連携促進事業	250	250	-	新規
新たなインバウンド層の誘客のためのコンテンツ強化等 (注1)	1,986	1,986	171	11.60
地域観光資源の多言語解説整備支援事業	600	600	118	5.07
地域一体型ガストロノミーツーリズム推進事業	200	200	-	新規
文化資源を活用したインバウンドのための環境整備	8,116	8,116	4,000	2.03
国立公園のインバウンドに向けた環境整備	5,099	5,099	2,545	2.00
公共交通利用環境の革新等 (注1)	500	500	1	500.00
旅行安全情報共有プラットフォームを通じた旅行者の安全の確保	80	80	80	1.00
アウトバウンド促進に向けた海外教育旅行プログラムの開発	20	-	20	1.00
前年度限り	-	-	56	皆減
(3) 国内交流拡大	645	-	679	0.95
新たな交流市場・観光資源の創出事業	615	-	649	0.95
ユニバーサルツーリズム促進事業	30	-	30	1.00
(4) その他 (経常事務費等)	565	-	552	1.02
合 計	50,318	40,293	30,703	1.64

東日本大震災からの復興(復興枠)

(単位：百万円)

	6年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	倍 率 (A/B)
福島県における観光関連復興支援事業	500	500	1.00
ブルーーツーリズム推進支援事業	266	270	0.98
合 計	765	770	0.99

令和5年度補正予算

(単位：百万円)

	予算額
地方誘客促進によるインバウンド拡大	18,382
訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業	25,548
オーパーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業	5,000
地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化 (注2)	20,000
合 計	68,930

(注1) 令和5年度補正予算も活用。

(注2) 令和4年度第2次補正予算において措置した国庫債務負担行為の歳出化予算を計上。

※ 本表における計数は、端数処理の関係で、合計した額と一致しない場合がある。

※ 本表における計数は、政府情報システムに係る経費(デジタル庁一括計上分)を含む。

※ 上記のほか、宮内庁計上の三の丸尚蔵館の整備20億円(前年度3億円)及び皇居東御苑大手休憩所(仮称)の整備17億円についても、国際観光旅客税財源を充当。

出典：観光庁「令和6年度 観光庁関係予算決定概要」より

NEXT.....

■特に予算が増額されている事業や予算規模の大きい事業を一部だけご紹介・・・

詳しい内容は、観光庁「令和6年度 観光庁関係予算決定概要」をご覧ください。
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryoyosan/content/001714568.pdf>

2024年度観光庁予算の概要 ②

■ 持続可能な観光地域づくり

Point

- ・喫緊の課題である観光業界の**人材不足対策**に1.2倍の予算を投入し、観光産業の回復に取り組む
- ・その他、**受入環境整備や観光DXの推進、国際認証・表彰、DMOの体制整備**などについて引き続き取り組む。

観光地・観光産業における人材不足対策事業

令和6年度予算額 180百万円
※令和5年度補正予算も活用



事業目的・背景・課題

- 宿泊業ではインバウンドをはじめとする観光需要の急速な回復に伴い人手不足が顕著となっている。今後更なる増加が見込まれる観光需要を着実に取り込み、地方への旅行者数・旅行消費額等の増加といったインバウンドによる経済効果を最大限にするためにも、受け皿となる宿泊業の人手不足の解消が急務。
- 人手不足の解消に向け、外国人材の活用や経営の高度化、事業者間連携による省人化等の人手不足対策を実施。

事業者向け

事業内容

- ①外国人材の確保
特定技能試験の受験者を増やすためのジョブフェア等のPR活動、試験合格者の雇用のためのマッチングイベントの実施、観光地における外国語対応人材の確保等
- ②経営の高度化
「観光人材育成ガイドライン」に準拠した教育プログラムの開発・提供等、経営の高度化に向けた支援
- ③事業者間連携による省人化（令和6年度新規）
バックヤード人材の共有等、省人化に資する取り組みを支援

事業イメージ

外国人材の確保



特定技能外国人材（宿泊業）

事業者間連携による省人化



A旅館

B旅館

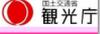
事業スキーム

- ・事業形態：直轄事業
- ・請負先：民間事業者
- ・事業期間：①令和元年度～ ②令和5年度～ ③令和6年度～

お問い合わせ先：観光庁 観光産業課 電話：03-5253-8387

世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業

令和6年度予算額 400百万円



事業目的・背景・課題

全国各地で世界的な競争力を有する魅力ある観光地域づくりを促進するため、全国の優良な観光地域づくり法人（DMO）の体制を強化する。

事業内容

①以下の4分野における専門的知見や外国人目線を有する外部専門人材の登用に係る費用を支援

- ・インバウンドに関するデータの分析とそれに基づく誘客/観光消費戦略の策定
- ・外国人旅行者に讨好される魅力的なコンテンツの開発・強化
- ・外国人旅行者が快適かつ安全に滞在・滞在できる受入環境の整備
- ・国内外向けの戦略的情報発信・プロモーション

②中核人材の確保及び育成に資する以下の取組に係る費用を支援

- ・採用活動
- ・先進的な海外観光地への視察
- ・他のDMOとの人材交流
- ・研修・セミナー等の受講

③安定的な財源の確保に資する以下の取組に係る費用を支援

- ③-i 安定的な財源の確保のための計画の策定
- ③-ii 宿泊税、入湯税、入域料等の地方税、受益者分担金・負担金等の導入等に向けた合意形成に資する勉強会、シンポジウム等の開催

事業スキーム

- ・事業形態：間接補助（定額（上限①1,500万円、②500万円、③-i 500万円、③-ii 200万円））
- ・補助対象：国→民間事業者→登録DMO・地方公共団体※R6年度より、地方公共団体が③に係る取組をDMOと共同して実施する場合も支援対象とする。
- ・事業期間：令和元年度～

事業イメージ



高付加価値コンテンツの開発のための外部専門人材の登用



地域マネジメント研修の受講



財源確保に向けた勉強会

ICT等を活用した観光地のインバウンド受入環境整備の高度化

令和6年度予算額 990百万円



電話：03-5253-8328

事業目的・背景・課題

- 消費額の拡大や地方誘客の促進を図りつつインバウンドを本格的に回復させ、高い経済効果を全国に波及させる必要。
- 全国の観光地における個々の観光スポットや広域的な周遊に係る一体的な環境整備の取組等を支援する。

事業内容・イメージ

①インバウンド受入環境整備高度化事業

訪日外国人旅行者の周遊の促進及び消費の拡大を図るため、受入環境整備の高度化を図る一体的な整備や観光施設等の受入環境整備を支援



事業スキーム

- ①事業形態：直接補助事業、補助率：1/2、1/3
補助対象事業者：地方公共団体、DMO、民間事業者等
 - ②事業形態：間接補助事業（国→地方公共団体→電線管理者）、
国は補助対象経費の1/2を補助対象事業者に補助
補助対象事業者は補助対象経費の2/3を間接補助対象事業者に補助
 - ③事業形態：直接補助事業、補助率：1/2、補助対象事業者：地方公共団体、協議会
 - ④事業形態：直接補助事業、補助率：1/3、補助対象事業者：地方公共団体、民間事業者
- 事業期間：①令和4年度～、②、④令和元年度～、③令和2年度～

お問い合わせ先：観光庁 観光庁外客受入参事官室 電話：03-5253-8111

↑ 2023年度の
約1.2倍の予算規模

↑ 2023年度の
約8倍の予算規模

出典：観光庁「令和6年度
観光庁関係予算決定概要」より
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/yosan/content/001714568.pdf>

← 2023年度の
約6.6倍の予算規模

2024年度観光庁予算の概要 ③

■ 地方を中心としたインバウンド誘客の戦略的取組



- ・インバウンド関連は、8月概算要求時には内容が不透明であった「国際観光旅客税」財源が投入されたことにより、2023年度予算の約1.7倍もの予算規模に再編されている。
- ・戦略的な訪日プロモーションとして、大阪・関西万博を契機とした日本各地への誘客促進のプロモーションを行う。
- ・当該項目の中では、MICE誘致の促進に2023年度の4倍にあたる9億円が振り分けられている。

戦略的な訪日プロモーションの実施

令和6年度予算額 12,542百万円  観光庁

事業目的・背景・課題

- 個人旅行再開等の水際措置の緩和以降、インバウンドの回復が進む中、地方への誘客と消費額の拡大を進めていく必要がある。
- 観光立国推進基本計画（R5.3閣議決定）に定める新たな目標の達成、2025年大阪・関西万博開催を契機とした日本各地の魅力発信に向けて、持続可能な観光、消費額拡大、地方誘客促進をキーワードとし、国・地域ごとのニーズを踏まえた効果的なプロモーションに取り組む。

事業内容

○日本政府観光局（JNTO）を通じて、コロナ禍を経た旅行者の意識変化を踏まえながら、国・地域別の戦略等に基づき、メディアやSNS、インフルエンサー等を活用し、戦略的な訪日プロモーションを実施する。

【令和6年度におけるプロモーションの取組】

2025年に開催を控える大阪・関西万博を契機とし、日本各地への誘客を促進するプロモーションなど、下記の取組を実施。

①市場別プロモーション

例) 海外事務所を拠点としたきめ細かなプロモーション
アジア市場のリピーター層向けの大規模キャンペーン等

②テーマ別プロモーション

例) 持続可能な観光の推進、高付加価値旅行者向けプロモーション等

③インバウンド誘客に向けた環境・基盤整備

例) 航空会社との共同広告を通じた地方路線の復便・増便等の促進
デジタルマーケティングを活用したプロモーションの高度化等

事業スキーム

事業形態：交付金 交付先：JNTO

お問い合わせ先：観光庁 国際観光課 電話：03-5253-8324

事業イメージ



ウェブサイト・オンライン広告による情報発信



SNS投稿による情報発信



旅行会社の招請によるツアー造成支援



商談会によるネットワーキング

→上記のうち、9億円はMICE関連。
予算規模は2023年度の約4倍

←JNTOへの交付金として、125億円を計上

MICE誘致の促進

令和6年度予算額 908百万円、12,542百万円の内訳（JNTO運営交付金） 観光庁
※令和5年度補正予算も活用

事業目的・背景・課題

- ①「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」において掲げられた目標（2030年に世界5位以内）の達成に向けては、各都市のMICE誘致の国際競争力を強化することが不可欠。
- ②各国でMICE誘致活動を強化している中、競合に勝ち抜きMICE需要を呼び込むため、ニュースの変化に対応した最新情報の発信や誘致のキーとなる国内外関係者との連携強化により、効果的な誘致活動を推進する必要がある。
- ③国際機関との連携等を通じてポストコロナの国際観光を日本がリードし、観光分野における日本の取組や魅力を世界に発信することは、訪日観光の更なる促進に不可欠。

事業内容

※太字は令和6年度新規（拡充）内容

①MICE誘致体制の抜本的強化等

- (1) MICE施設における無線LAN等の整備 (i)、MICE人材育成プログラムの受講・見本市等への参加支援 (ii) によるコンベンションビューロー（以下「CB」という。）の誘致体制の強化
- (2) 国際会議におけるユニークベニューの活用や会議参加者の同遊性向上のための取組等への支援
- (3) CB等と大学が連携して行う誘致力強化の取組への支援
- (4) MICE誘致に意欲的な地方都市に対する専門家の支援プログラムや誘致ノウハウの提供
- (5) MICE総消費額の算出、MICE施設のコンセッション方式の導入に向けた調査支援

②JNTOのマーケティング展開

- (1) ICCA等の国際団体との連携強化やMICE見本市出展など海外向け情報発信の強化
- (2) 大学及び主要学会等との連携強化や会議主催者の開催意欲の醸成を図るための国内向け情報発信の強化
- (3) 大きな経済波及効果が期待できるミーティング・インセンティブ旅行の誘致・開催支援 等

③国連世界観光機関（UNWTO）・関係諸外国との連携による国際観光シンポジウム等の開催

- (1) UNWTO等の国際機関と連携し、ポストコロナにおける諸外国の観光政策の動向や先進的な取組事例等を分析する。
- (2) 国際機関との連携等を通じて国際レベルで推奨される取組を国内外へ共有し、観光分野における我が国のプレゼンス強化を図るとともに、観光地の魅力を発信する。

事業スキーム

- ① (1) 事業形態：直接補助事業（補助率1/2、補助上限：i:2000万円 ii:300万円） 補助対象：施設管理者・CB
 - ② (2)～(5) 事業形態：直轄事業 請負先：民間事業者
 - ③ 事業形態：交付金 交付先：JNTO
 - ④ 事業形態：直轄事業 請負先：民間事業者
- 事業期間：① (1)～(3) 令和6年度～、① (4) 平成30年度～、① (5) 平成28年度～、③平成31年度～

お問い合わせ先：①、②観光庁 参事官(MICE)、③参事官(国際関係) 電話：①、②03-5253-8938、③03-5253-8922

事業イメージ



国際観光シンポジウム等の開催

■ 地方を中心としたインバウンド誘客の戦略的取組

Point

・「国際観光旅客税」財源の多くが空港関連の整備事業に投入されている。

円滑な出入国・通関等の環境整備

観光庁(法務省) : 7,201百万円



観光庁(財務省) : 2,491百万円

○ ストレスフリーで快適な旅行環境の実現のため、世界最高水準の技術を活用した革新的な入国審査・税関検査を実現することにより、旅客の待ち時間の短縮を図る。

旅客の利便性向上と水際対策の更なる効率化を実現するため、入管・税関手続に必要な情報を同時に取得することを可能とする「共同キオスク」を順次導入。(法務省・財務省)



顔写真(加えて外国人の上陸手続きでは指紋)・旅券及び申告情報の同時取得が可能となるため、税関・入管手続にかかる重複の解消による利便性向上、それに伴う時間の短縮化を実現。

最先端技術を用いた個人識別情報システムの機能強化・出入国手続の迅速化による訪日外国人旅行者の利便性向上(法務省)

上陸審査における非接触指紋取得技術の開発

上陸審査における非接触指紋取得技術(指を機器に圧着せず指紋を取得する技術)を開発し、出入国手続の円滑化によりストレスフリーな旅行環境を推進する。

【現行】圧着型での指紋取得

【将来】非接触型での指紋取得(イメージ)



機器に手をかざして、指紋を取得する。

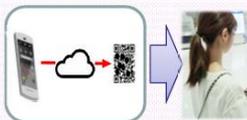
○手をかざすだけで指紋を取得できるユーザーフレンドリーな設計により、指紋取得時間の短縮、操作誤り等による指紋取り直し回数の低減による上陸審査(待ち)時間の短縮

税関検査場電子申告ゲート(Eゲート)の利便性向上(財務省)

Eゲートの利便性向上

(事前にスマートフォンで、必要事項を入力し、申告QRコードを作成)

(空港到着後、キオスクで電子申告)



キオスク端末及びゲート等の機能強化による

空港におけるFAST TRAVELの推進

令和6年度予算額 1,560百万円

※令和5年度補正予算も活用



事業目的

- 世界最高水準の空港利用者サービスを提供するため、先端技術の活用等により、旅客が行う諸手続きや空港内の動線を一貫通貫で高度化することにより、手続きを迅速化する。
- 訪日外国人旅行者6000万人、訪日外国人旅行消費額15兆円の実現に向けて、出入国手続時間短縮によるストレスフリーで快適な旅行環境を提供することで、我が国空港の国際競争力を強化し、インバウンドの早期回復を目指す。

事業内容

① 搭乗関連手続きの円滑化

ストレスフリーで快適な旅行環境実現に向け、顔認証技術を活用した本人確認システムの導入、自動手荷物預け機や自動運転トレーイングカー等の自動化機器の導入により旅客の待ち時間短縮や手続きの非接触・非対面化等の実現を促進。



チェックイン→搭乗までの自動化機器を顔認証システムで一元化(One ID化)

(手荷物・旅客輸送の迅速化)



② 旅客動線の合理化・高度化

地方空港において、ビジネスジェットの受入環境整備、チェックインカウンターの共用化等、空港内の旅客動線を短縮することで、国際線利用者の混雑・待ち時間を改善し、国際線の受入を促進。



ビジネスジェット受入環境整備



チェックインカウンター共用化 インラインシステム化

事業スキーム

◆事業形態: 直接補助事業(補助率1/2) ◆補助対象: 空港ビル会社、空港会社等 ◆事業期間: 令和元年度～

お問い合わせ先: 国土交通省航空局総務課企画室 電話: 03-5253-8695(内線49602)

■ 地方を中心としたインバウンド誘客の戦略的取組

Point

- 「国際観光旅客税」を財源とした以下の新規事業が予定されている。

地域一体となったインクルーシブツーリズム促進事業 令和6年度予算額 80百万円

事業目的・背景・課題

- インバウンドの拡大に伴い、ベジタリアン等多様な食習慣や文化的習慣を有する訪日外国人旅行者も増加。快適・安心な受入環境の整備を図るとともに、観光消費拡大に向けては、満足度の向上に資する旅行環境の整備を図る必要。
- 受入環境の整備やニーズに合わせた高付加価値なサービスの提供等による地域一体の取組を促進するため、地域の観光関係者の連携による優良モデルを構築する。

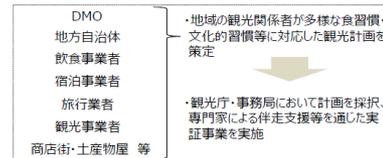
事業内容

- 【調査事業】多様な食習慣・文化的習慣を有する訪日外国人旅行者の誘客促進・観光消費拡大に向けて、地方自治体、DMO、飲食業、宿泊業、旅行業等の観光関係者が連携して旅行環境整備に取り組むモデル実証
 - ・想定する多様な訪日外国人旅行者：ベジタリアン・ヴィーガン、ムスリム等
 - ・安心して旅行できる受入環境整備に加え、地域における滞在時間の増加や消費拡大に資するコンテンツ作成や情報発信等を実施
 - (例、日本食らしさを備えたヴィーガンメニューの開発、食のピクトグラムの整備、礼拝所の整備 等)
- ・事業の実施を希望する地域に対しては、「多様な食習慣・文化的習慣等に対応した観光計画(仮)」の策定を求め、採択した計画に基づき専門家による伴走支援等を実施。

事業イメージ



<実証プロセス>



事業スキーム

- ・事業形態：直轄事業
- ・請負先：民間事業者
- ・事業期間：令和6年度～

お問い合わせ先：観光庁 外客受入参事官室 電話：03-5253-8872

ストーリーで繋ぐ地域のコンテンツの連携促進事業 令和6年度予算額 250百万円

事業者向け

事業目的・背景・課題

- インバウンド旅行需要が回復に向かう中で消費額増加をより一層促進するため、R4年度補正予算を活用し、1週間以上の旅全体を通じたストーリーの造成等により地域を繋ぎ、長期滞在を実現するための実証にかかる取組を支援している。
- 長期旅行者を一層惹きつけるためには、造成したツアーに対する販路拡大・磨き上げ等の継続的な支援や、これまでの成果を取り入れたよりストーリーが感じられるツアーの新規造成・販売への支援が必要である。また、ツアーに同行し、地域の多様な関係者と様々な連携しながらツアー全体をコーディネートする“Experience Manager”の育成支援も不可欠である。

事業内容

- ①既存ツアーの販路拡大・磨き上げ
 - ・海外旅行会社を招聘したファミツアー開催
 - ・コンテンツの磨き上げ 等
 - ※R4年度補正予算を活用して造成したツアー
- ②新たなツアーの造成・販売
 - ・コンテンツの企画開発、地域事業者等へのセミナー開催
 - ・OTA掲載、旅行会社との商談
 - ・情報発信のための素材やツールの作成 等
- ③Experience Managerの育成
 - ・ガイド研修 (R4年度補正予算を活用) を受講した特に優秀な方等を対象に海外派遣プログラムを提供
 - ・ツアー優待のためExperience Managerの育成に取り組み
 - 地域を対象に上記の横展開やプロによる研修を実施 等

事業イメージ

ストーリー：
サムライの繁栄と衰退の物語から、武士と日本の精神文化に触れ、自身に繋がる学びを得る

新しい時代を生き抜くためにラストサムライが残したことから、現代に繋がる学びを得る

武蔵、武家文化に息づく武士道精神を体感し、日本人が大事にする考え方について学ぶ

弓道体験 居合道(抜刀体験)

武士が嗜んだ茶道体験 相模精舎見学 サムライシルク

事業スキーム

- ・事業形態：直轄事業 請負先：民間事業者
- ・事業期間：令和6年度～

地域一体型ガストロノミーツーリズム推進事業 令和6年度予算額 200百万円

事業目的・背景・課題

- 訪日外国人旅行者の急速な回復の中で、外国人旅行者から需要が高い食について、魅力的なガストロノミーツーリズムコンテンツを造成し、インバウンド誘客を高めるとともに、地方誘客を促進する。
- 申請主体の要件を自治体や民間事業者等まで広げ、先進性のある取組については、ガストロノミーツーリズムの更なる類型化を図ることにより、最先端のモデル事例の取りまとめを行う。
- 令和4年、奈良県で開催された「第7回UNWTO (国連世界観光機関) ガストロノミーツーリズム世界フォーム」では「人と地球のためのガストロノミーツーリズム：革新し、活躍を推進して、維持する」のテーマの下、持続可能な社会の発展、価値ある資源としての食料利用等におけるガストロノミーツーリズムの役割について議論され、本事業においても、地産地消等、持続可能なコンテンツ造成を行う。

事業内容

- 1) 調査事業
 - 先進的な観光地域創出に向けて、食のコンサルタント、料理人含む食の専門家による視察や磨き上げ等伴走支援を実施し、各類型においてガストロノミーツーリズムの推進を図る。
- ①戦略策定②メニュー開発③イベント実施④コンテンツ造成⑤インバウンド対応整備 等

2) 補助事業

- ユニークベニュー活用のための施設整備やガストロノミー類型に係るコンテンツ造成、販売経路の形成等を補助する。
- アクセシビリティ拠点整備
- ①施設整備②コンテンツ造成③販路形成 等

○ガストロノミー類型

- ユニークベニュー型
- 高付加価値化型
- ナイトタイム型
- 国際認証型

事業スキーム

- ・事業形態：1)直轄事業 2)直接補助事業(補助率 1/2、補助上限50百万円)
- ・補助対象：都道府県、市町村、DMO、民間事業者等
- ・事業期間：令和6年度～

事業イメージ

高付加価値化型：長野県木曾郡南木曾町 (Zen Resorts)



ユニークベニュー型 (高付加価値型)：神奈川県三浦市



お問い合わせ先：観光庁 観光地域振興部 観光資源課 電話：03-5253-8925

↑これまでカバーできていなかった「ベジタリアン・ヴィーガン」「ムスリム」などに対する受入環境整備への補助金

出典：観光庁「令和6年度観光庁関係予算決定概要」より
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/yosan/content/001714568.pdf>

国内交流拡大



- 国内交流拡大としては、「ワーケーションの普及・定着」「新たな観光資源の形成」や、ユニバーサルツーリズムの普及促進などの取組みが予定されている。

新たな交流市場・観光資源の創出事業

令和6年度予算額 615百万円



事業目的・背景・課題

- これまで幅広い傾向であった国内旅行市場が需要拡大へ転じるためには、**新たな交流市場の創出**が重要。
- 〇「何處も地域に通う旅、帰る旅」という新たな旅のスタイルで反復継続した来訪を促進する「**第2のふるさとづくり**」、コロナ禍を経たテレワークの普及や働き方の多様化を踏まえた「**ワーケーションの普及・定着**」、将来にわたって国内外の旅行者を惹きつける「**新たなレガシー形成**」により、旅の潜在需要を顕在化させ、地域の関係人口拡大にもつながる形で交流需要の拡大を図る。

事業内容

反復継続した来訪を促進するための「第2のふるさとづくり」の推進

令和5年度は、来訪の度に新たな体験ができるか等の来訪後の関心の継続性に着目した取組を行ったが、より地域との関係性の深化を図るため、令和6年度は、自分のスキルを活かしたい、地域から学びを得たい、地域運営に携わりたい等の**ターゲットのニーズに着目した来訪機会を創出するモデルの構築**を行う。



テレワークの普及や働き方の多様化を踏まえた「ワーケーション」の普及・定着

令和3年度以降、導入企業は着実に増加しているものの、**いまだ高い水準とはいえない状況**。 ※ワーケーション制度導入率：R3 9.1% → R4 13.4% (観光庁調査)

令和6年度は、①これまでの取組を通してワーケーション普及の課題に挙げた**子育て世代を対象にしたワーケーションのモデル実証**、②特定の執務環境を持たない**ノマドワーカー等、新たな働き方に対応したワーケーションのモデル実証**、③令和5年に設置した**官民推進協議会と連携した普及啓発**を行う。



事業スキーム

事業形態：直轄事業 請負先：地方公共団体、DMO、民間事業者等
事業期間：(第2のふるさと・レガシー) 令和4年度～ (ワーケーション) 令和3年度～

お問い合わせ先 (第2のふるさとづくり・ワーケーション) 観光庁 観光地域振興部 観光資源課 電話：03-5253-8924 (レガシー形成) 観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課 電話：03-5253-8327

地域・日本の新たなレガシー形成

- 将来、地域・日本のレガシー (遺産) となる**観光資源を新たに形成**することを目指し、**実現可能性調査・プラン作成**を実施。
- 令和6年度以降は、上記に加え、日本を代表する魅力となり得る良質な案件を対象に、**実現に向けて重点的に検討**。

R4・R5年度 **実現可能性調査・プラン作成**

R6・R7年度 **良質な案件の実現に向けた合意形成・概略設計等**

R8年度頃～ **事業化・整備**



ユニバーサルツーリズム促進事業

令和6年度予算額 30百万円



事業者向け

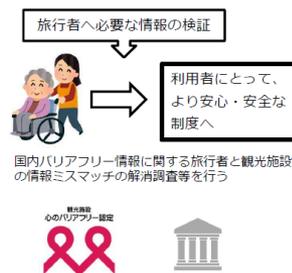
事業目的・背景・課題

- 〇 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に基づく基本方針における5年間の目標である「心のバリアフリー」の用語の認知度50%等の目標達成に寄与するため、「観光施設における心のバリアフリー認定制度」認定数の増加と制度の周知促進を図り、以てユニバーサルツーリズムの普及促進を図る必要がある。
- 〇 高齢者・障がい者等が安心して旅行ができる環境を整備するため、①「観光施設における心のバリアフリー認定制度」に求めるバリアフリー情報に関する必要な情報の精度向上と情報提供の充実、②「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の普及促進に向けた情報発信を行う。

事業内容

- ①バリアフリー情報の精度向上と旅行者への情報提供の充実
高齢者・障がい者等が求めるバリアフリー情報と、観光施設が提供するバリアフリー情報のミスマッチを解消し、旅行者が安心して認定施設を選ぶよう、バリアフリー情報の精度向上や旅行者への情報提供の充実に向けた取組を行う。
- ②「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の普及促進
観光施設における心のバリアフリー認定制度の普及促進に向け、令和5年度に認定対象施設に追加した博物館等を対象としたバリアフリー対応の取組事例の紹介動画並びに認定制度の認知度及び理解度の向上を促進する広報動画等を作成する。

事業イメージ



事業スキーム

- ・事業形態：直轄事業 ・請負先：民間事業者 ・事業期間：平成24年度～

お問い合わせ先：観光庁 参事官(産業競争力強化) 電話：03-5253-8948

(再掲) 2023年度補正予算の概要

■ 地方誘客促進によるインバウンド拡大

特別な体験の提供等によるインバウンド消費の拡大・質向上推進事業

事業目的・背景・課題

- 我が国のインバウンド消費の回復は途上であり、特に、地方におけるインバウンド消費の回復状況については、地域毎に大きな差が生じている。
- 早期にインバウンド消費額5兆円を達成し、一人当たり消費額25万円を目指すと同時に、我が国の地方の魅力を世界中に発信・訪日誘客し、その果実を地方へ波及させることが極めて重要。

事業内容

- 我が国が誇る観光資源(自然、文化、食、スポーツ等)を、**早朝夜間や未公開・非混雑エリア等の十分な活用と組み合わせ**、これまでにないインバウンド需要を創出、**期間限定の特別な体験として提供**。
- 特に、**地方における体験コンテンツ等の消費を一層拡大・質の向上を図るため**、地方の自然、伝統文化活用、食の地産地消、地域人材の活用等を奨励し、**極めて付加価値が高く、地域の目玉となる様々な資源を集約した「地方プレミアム体験コンテンツ」の創出を促進**。
- 海外情報発信の観点から、**海外旅行博等における訪日イベントを実施**。

事業イメージ

期間限定の特別な体験



地方プレミアム体験コンテンツ



海外情報発信



事業スキーム

- ・事業形態：直轄事業・間接補助事業
 - (1) 国・地方型(直轄事業)：上限8,000万円(最低事業費：3,000万円)
 - (2) 民間企業型(補助事業)
 - ①インバウンド規模3,000名以上:1,500万円定額 1,500~6,000万円まで補助率1/2(最低事業費：2,500万円)
 - ②高付加価値：1,000万円定額 1,000~3,000万円まで補助率1/2(最低事業費：1,500万円)(単価3倍以上)

- ・請負先：民間事業者
- ・補助対象：国→民間事業者(事務局)→地方公共団体、DMO、民間事業者等

お問い合わせ先：観光庁国際観光課、観光資源課 電話：03-5253-8924、03-

海外ビジネス客の訪日・消費拡大事業

事業目的・背景・課題

- ビジネス分野の誘客は、「**新時代のインバウンドアクションプラン**」でも位置づけられた重点分野。ビジネス目的による訪日客は、**長期滞在・高い消費単価の傾向**があり、国内全体の消費額増につながることも、**需要の平準化**にも資するものである。
- **ミーティング・インセンティブ旅行(MI)**は、世界的に**市場規模が大きく、今後成長率が見込まれる分野**であるが、国内での誘客の仕組みやコンテンツ造成が進んでおらず、世界の需要を十分に取込めていない。**足下での回復が進み、2025年には、大阪・関西万博を契機として多くのインセンティブ旅行・企業会議が想定**される中、受入体制を早急に整備する必要がある。

事業内容

- ①地域一体となったコンテンツ開発
コンベンションビューロー、地元産業、旅行会社等の地域関係者による検討会等を開催し、地域一体となったミーティング・インセンティブ旅行(MI)向けのコンテンツの開発等を実施
- ②開催効果・広域波及の拡大
他の地域で開催される国際会議等のイベントにおける、ツアー/エクスカージョンの販売・提供等を促進し、開催地への経済効果のみならず、開催地以外の地域への波及効果を高める。

事業スキーム

- ①事業形態：直轄事業(上限：4,000万円)
- ②事業形態：直轄事業(上限：1,200万円)
- ①②請負先：民間事業者

お問い合わせ先：観光庁 MICE室 電話：03-5253-8938

地域観光新発見事業

事業目的・背景・課題

- 観光需要が本格的に回復する中、観光客の宿泊先はインバウンドを中心に**都市部へ偏在傾向**。観光による経済効果を地方にも波及するためには、特に地方部の地域間競争力を高め、**地方誘客を強力に進める必要**。
- **全国津々浦々に埋もれる地域の観光資源を掘り起こし、地域の多様な観光コンテンツを造成**するとともに、**適時適切な誘客につながる販路開拓や情報発信**を行うことにより、**地方への継続的な来訪を促進**。

事業内容

- 地域の観光資源を活用した地方誘客に資する観光コンテンツについて、**十分なマーケティングデータを活かした磨き上げから適時適切な誘客につながる販路開拓及び情報発信の一貫した支援**を実施。
 <支援内容>・専門家の意見を踏まえた観光コンテンツの磨き上げ・商品化
 ・新たな観光コンテンツのオンライン等を活用した国内外への販路開拓及び情報発信

事業イメージ



事業スキーム

- ・事業形態：間接補助事業 400万円まで定額、400万円を超える部分については補助率1/2(補助上限：1,250万円、最低事業費：600万円)
- ・補助対象：国→民間事業者(事務局)→地方公共団体、DMO、民間事業者等

お問い合わせ先：観光庁 電話：03-5253-8924

↑内容としては、「**観光再始動事業**」の後継事業
2024年1月12日～公募中

↑内容としては、「**インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ助成支援事業**」の後継事業。
ただし、当該事業では、インバウンドに加え国内のコンテンツ等も対象となった。

出典：観光庁「令和6年度
観光庁関係予算決定概要」より

<https://www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/yosan/content/001714568.pdf>

中国の国際線 2024年見込み

- ・ロイター通信によると、中国民用航空局（CAAC）は中国を発着する国際線が、2024年末までにコロナ前までに80%まで回復するとの見通しを示した。
- ・CAACは、今後1年間、米国への直行便を大幅に増やすことも明らかにした。

便数 見通し

2023年当初 500便未満／週



2024年1月現在 約4,600便／週



2024年**年末** 約6,000便／週

※ コロナ前の約80%まで回復



- ・中国からの海外旅行者については、航空便の不足、航空券の高騰、ビザ取得などを理由に大幅に回復が遅れているところ。
CAACは、2024年の中国の旅行者は、国内外合わせて前年比11%増の6.9億人に達すると予測している。
- ・2024年の中国市場についても、コロナ前の完全回復まではいかないが、着実に増加する見込み。
引き続き動向を注視する必要がある。

出典：トラベルボイス(2024.1.5)

「中国発着の国際線、2024年末までにコロナ前80%まで回復か、米国便を大幅増便、旅行者数は6.9億人と予測

<https://www.travelvoice.jp/20240105-154901>



昨年(2022年)の2月にエンゲージメントの高かった投稿を紹介。

観光スポット編

↑ いいね数 上位ランキング

2月は
デートスポット・
バレンタイン!

2023年2月

BEST 1



2023/2/22

BEST 2



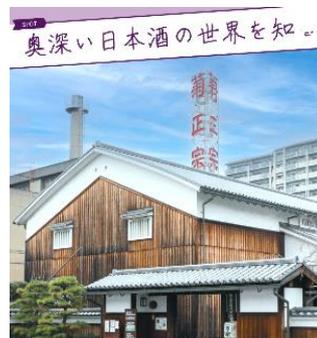
2023/2/8

BEST 3



2023/2/10

BEST 4



2023/2/24

BEST 5



2023/2/20

2023年2月は「有馬で身も心もぼかぼかに」が**1位**に。温泉・グルメ・街歩きを楽しむ冬のデートスポットを動画で紹介。
2位⇒「ロマンチックな水族館デート」。アクアリウムとアートが融合した都市型水族館「átoa」で、ロマンチックなデートの様子をリアルに紹介。
3位⇒「神戸スイーツを世界へ発信」。神戸を代表する8名のパティシエグループ「ORIGINE KOBE」。今年はバレンタイン特別バージョンとして、チョコレートを使用したクッキー缶が登場。(大丸神戸店9Fイベントホール 1/24~2/14 開催)
4位⇒「奥深い日本酒の世界を知る」。日本一の酒どころ灘五郷、「菊正宗酒造記念館」の紹介。職人の伝統技能を間近で見学することが出来る。
5位⇒「ギフトに神戸タータンを」。神戸開港150年を記念してつくられた、神戸のイメージカラー5色をチェック柄で表現した神戸タータンのグッズや神戸の街を彩る自動販売機や看板などを紹介。

その他の投稿



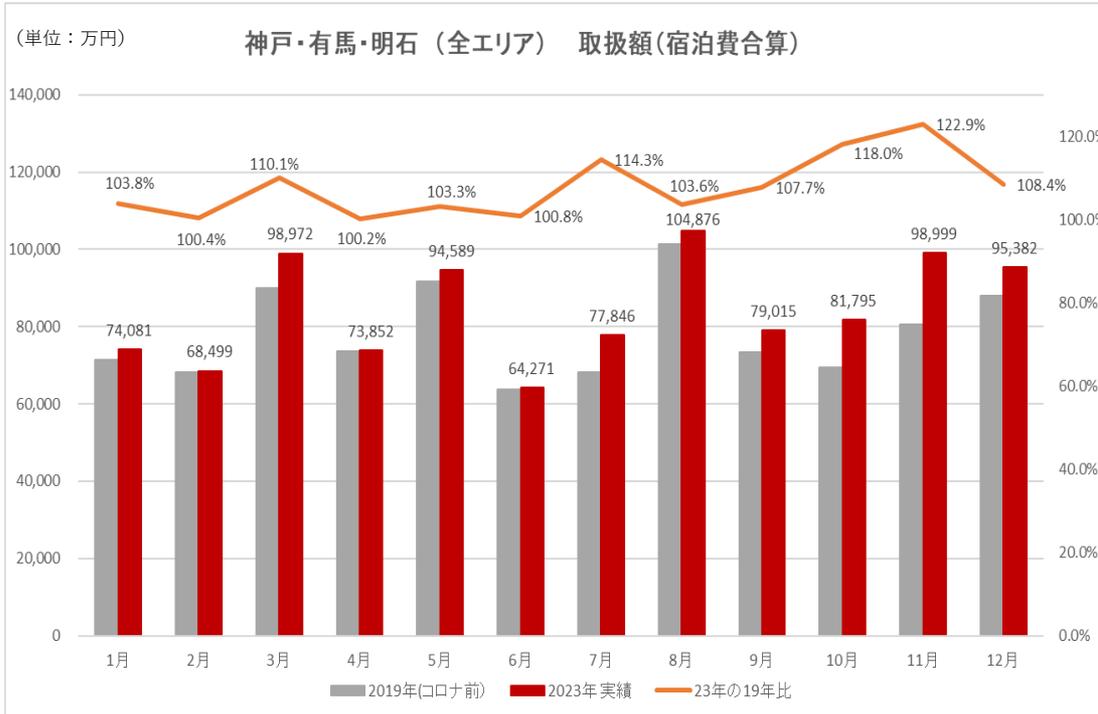
その他の投稿では、「いちご狩り」「フェリシモチョコレートミュージアム」など、デートスポットやバレンタイン関連の記事や話題が目立つ。

今月の注目数字（国内観光）OTAモニタリング

■ 直近のOTA取扱状況について

- 12月 全市（明石含む）の取扱額：2019年同月比同月比 108.4%、人泊数：97.3%、単価：111.5%。
- 10月以降回復していた人泊数は、12月は2019年比97.3%であった。（2019年12月ルミナリエ開催→人泊数に影響していたと推測）
- 全体的に単価の上昇が顕著だが、本国内OTA上では、有馬の客室平均単価は、箱根を超えて温泉エリアで日本一に。
- その影響もあり、有馬にあっては、単価の上昇から国内旅行者よりもインバウンドに選ばれやすくなってきている傾向がみられており、本国内OTA上では今後、国内旅行者の人泊数の変動を注視していく必要がある。
- 市街地にあっては、人手不足により販売部屋数を抑えつつ、単価を上げることで売上を維持しているホテルが増加。
一方、2019年と比較して、市内のホテル数も増えており、人泊数も回復傾向。

【実績】



2019年度比

	10月	11月	12月
全市			
取扱額	118.0% (117.6%)	122.9% (101.7%)	108.4% (101.9%)
人泊数	108.0% (109.7%)	110.5% (98.4%)	97.3% (91.1%)
市街地			
取扱額	121.2% (121.6%)	123.2% (102.0%)	109.3% (101.8%)
人泊数	112.1% (111.4%)	111.2% (101.7%)	96.6% (90.2%)
有馬			
取扱額	107.2% (101.3%)	113.3% (96.5%)	96.3% (92.6%)
人泊数	93.2% (94.7%)	94.9% (87.9%)	85.2% (82.9%)

黒太字は
2023年-2019年比（ ）内は同時点の2022年-2019年比

【このデータの特徴】

現在の国内観光における予約手段として、急速にその影響力が高まったのが、「OTA = Online Travel Agent」。代表的なOTAとして、じゃらんnet、楽天トラベル、一休、Booking.com、JTBるるぶトラベルが上位を形成している。サービスが登場してから個人旅行やビジネス出張などの手配手段として継続的に発展しており、最近ではパソコンではなくスマホからの利用（予約）が主となってきている。2022年のコロナ影響下の中でも、利用者数は増加傾向にあり、トップシェアのOTAの利用者数は1368万人（対前年比177%）と成長している。最近では観光庁のGOTOキャンペーンや、全国旅行支援などで利用を開始する人も増えたと推察される。

一方で、大型宿泊施設や各種ホテルグループでは、OTAや旅行代理店（リアルエージェント）からの予約ルートに加えて、エージェントを介さない自社HPからの「直予約」の強化を図っている。

上記で掲載しているデータは、全ての販路を集計しているわけではないが、特に個人旅行の傾向を分析するには有効なものと考えている。

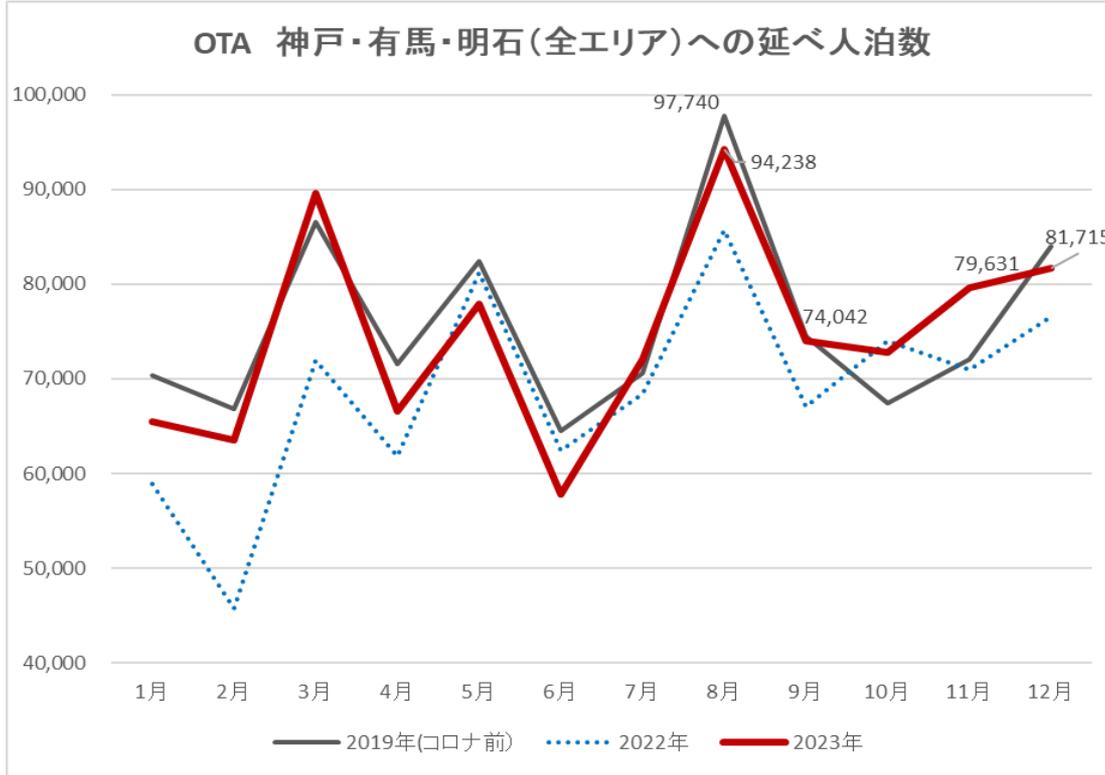
今月の注目数字（国内観光）OTAモニタリング

【DATAに関する基本情報】

- ・某大手OTA（Online Travel Agent）経由での延べ宿泊者数実績
- ・神戸市内の宿泊施設 145施設への月別の延べ人泊数（チェックアウトベース）

【グラフA】

（単位：人泊）

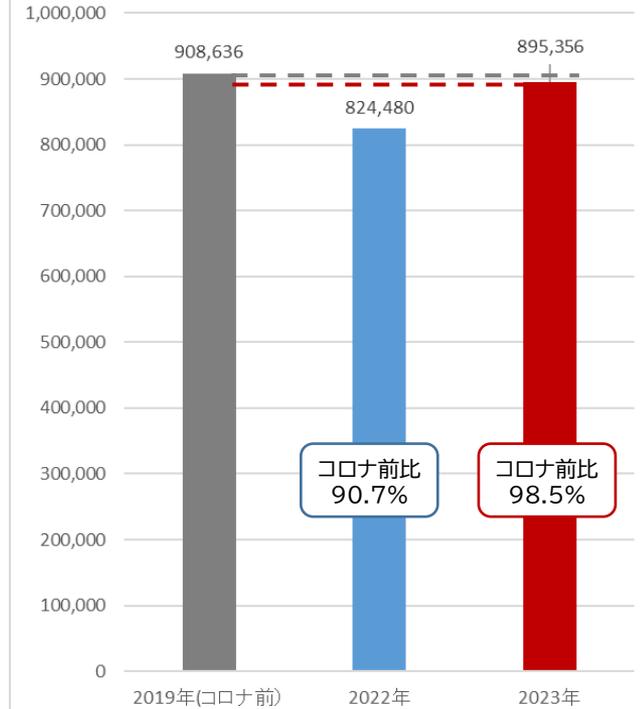


【グラフB】

OTA（単位：人泊）

神戸・有馬・明石（全エリア）

1～12月までの延べ人泊数累計比較



【考察① グラフ〔A〕 2023年度 延べ人泊数の推移】

- ・2023年は、2019年度の季節変動値に近い数値の推移。長らく2019年比▲1%～▲10%で推移していた。（インバウンドが回復傾向のため、人手不足により販売の部屋数を抑えている宿もあり人泊数は2019年水準に届いていない月もあった。）
- ・7月以降は2019年とほぼ同水準。10月以降2019年を上回る勢いを見せ、12月は2019年(8万4015人泊)の97%にあたる8万1715人泊となった。

【考察② グラフ〔B〕 2023-2019 1～11月延べ人泊数累計の比較】

- ・2023年年間では、89万5356人泊で、2019年（コロナ前・90万8636人泊）の98.5%まで回復
- ・2022年1年間（2022年・82万4480人泊）と比較すると、前年比108.6%。
- ・10月以降はコロナ前を超えて回復しており、年間人泊数もコロナ前にほぼ戻ったとみてよい。

今月の注目数字（国内観光）OTAモニタリング

【予約】

黒太字は
2023-2019年比（ ）内は同時点の2023-2022年比

【神戸市】 2019年比〔取扱額〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
全市						
1.21時点	124.9% (114.1%)	138.3% (137.5%)	143.4% (122.0%)	134.0% (158.6%)	97.6% (154.6%)	99.6% (141.7%)
12.17時点	128.3% (126.2%)	160.8% (186.7%)	181.0% (173.8%)	152.7% (194.1%)	133.0% (220.5%)	—
市街地						
1.21時点	134.4% (116.6%)	130.7% (127.8%)	141.6% (132.7%)	172.0% (157.0%)	111.4% (160.1%)	94.1% (146.5%)
12.17時点	140.3% (139.1%)	151.9% (175.5%)	187.5% (191.2%)	123.2% (183.6%)	120.0% (228.1%)	—
有馬						
1.21時点	103.9% (107.3%)	127.8% (134.4%)	127.1% (102.1%)	101.6% (155.0%)	85.1% (142.7%)	77.9% (148.4%)
12.17時点	102.9% (109.0%)	154.6% (187.9%)	137.2% (129.2%)	174.1% (220.4%)	114.2% (166.1%)	—

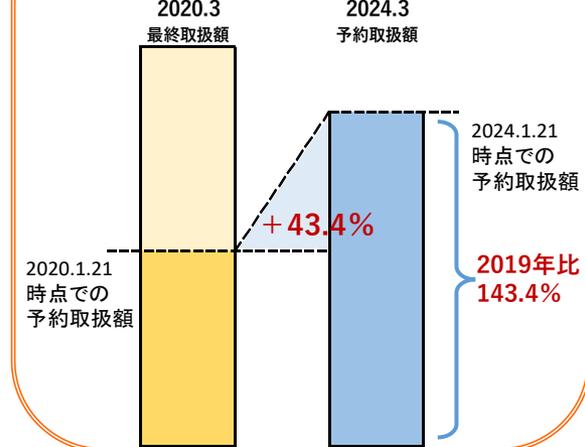


国内OTA 予約データは、2019年度と比較した**予約の勢いを確認するデータ**です。（下図参照）
2019年度同月実績との比較ではありません。
※最終的な2023年各月実績の2019年比は前2ページに掲載

【参考：他エリア比較】 2019年比〔取扱額〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
淡路島						
1.21時点	136.8% (107.4%)	152.6% (112.4%)	212.3% (94.3%)	138.0% (108.6%)	75.4% (80.0%)	166.7% (95.6%)
12.17時点	159.7% (105.8%)	202.6% (123.2%)	225.7% (116.9%)	248.1% (91.1%)	250.6% (90.2%)	—
城崎						
1.21時点	103.4% (107.1%)	118.0% (117.7%)	150.3% (114.6%)	110.4% (103.8%)	69.5% (115.6%)	103.4% (92.0%)
12.17時点	118.2% (103.6%)	151.7% (138.8%)	168.4% (140.8%)	191.0% (126.0%)	159.4% (181.5%)	—
大阪市エリア						
1.21時点	144.7% (108.4%)	174.3% (113.7%)	204.0% (103.3%)	174.3% (165.6%)	105.2% (145.4%)	210.3% (134.6%)
12.17時点	157.0% (129.7%)	191.2% (183.9%)	228.7% (179.2%)	244.2% (260.6%)	152.5% (177.8%)	—
京都市エリア						
1.21時点	132.7% (103.3%)	158.0% (133.1%)	161.7% (115.9%)	135.5% (146.8%)	82.6% (134.0%)	168.3% (235.6%)
12.17時点	141.6% (124.1%)	174.1% (195.9%)	169.4% (194.2%)	164.4% (172.0%)	119.6% (184.1%)	—
東京23区エリア						
1.21時点	132.7% (122.3%)	159.4% (144.5%)	190.0% (151.1%)	185.8% (179.0%)	119.7% (165.3%)	189.7% (190.7%)
12.17時点	153.8% (151.5%)	190.7% (200.1%)	190.0% (213.9%)	184.8% (255.4%)	65.5% (236.6%)	—

国内OTA 予約データの見方 (例) 全市 2024年3月



- 神戸市全域における先予約は、1月が2019年度比の124%のスピードで予約が入っており堅調。更に、2月～春先の予約も好調である。
- ここ数か月の傾向として、訪日外国人客（インバウンド）の予約数が増加する中で、国内旅行者向けの客室提供への影響も出てきており、その影響で国内旅行者の早期予約を後押ししているとも考えられる。他の地域でも早期予約の傾向が強まっていることに着目し、コロナ前よりも宿泊施設がリードタイムを伸ばす取り組み（ゴールド会員限定のプラン販売、〇〇日前までの予約でお得など）を実施している。
- 市街地は大阪、京都と同じく、単価の増加に加え、グループサイズが大きくなってきている傾向。1名宿泊の割合が減り、2名以上（友人、ファミリー）のグループでの宿泊が増えている。
- 有馬はインバウンドの増加により、国内OTA上は人泊数が減少傾向と予想される。単価が上昇していることから取扱額は2019年と同程度。（城崎も同様の傾向。）

定点観測

(延べ宿泊者数／市内ホテル平均稼働率)

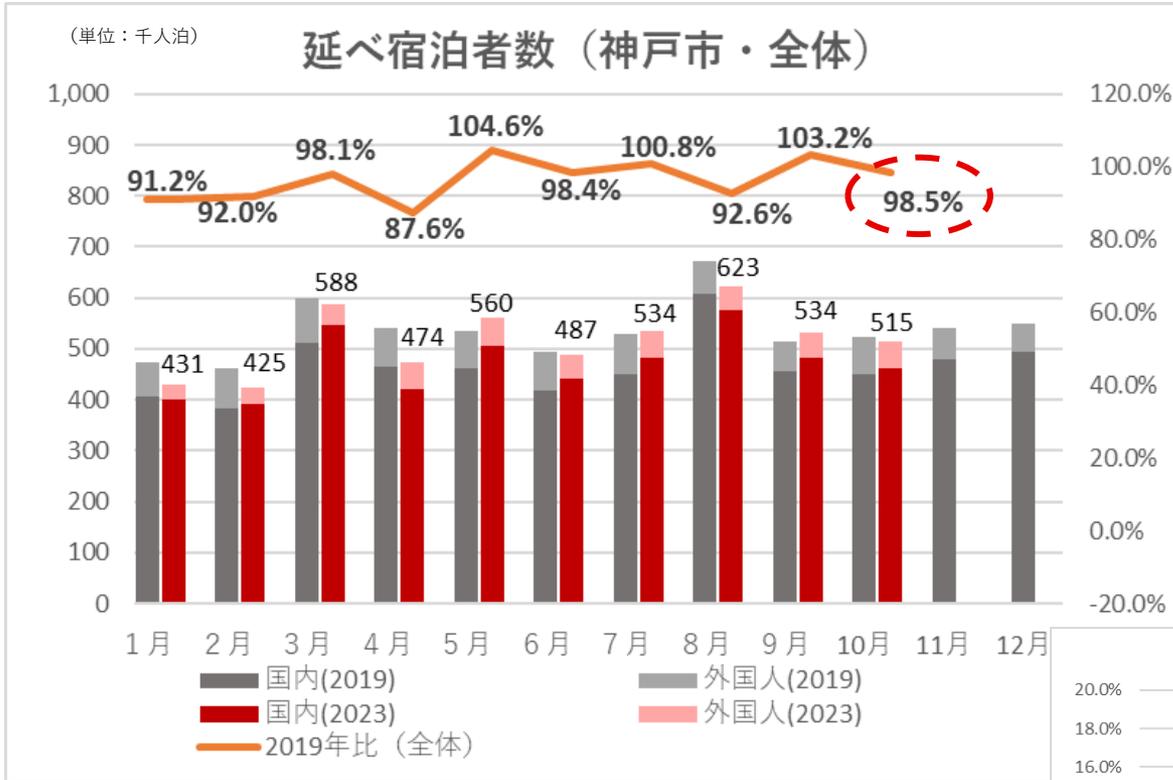
延べ宿泊者数の推移〔推計値〕【神戸市・全体】

※R5.10まで



【神戸市・全体】

※今月より神戸市の延べ宿泊者数の掲載を再開します。



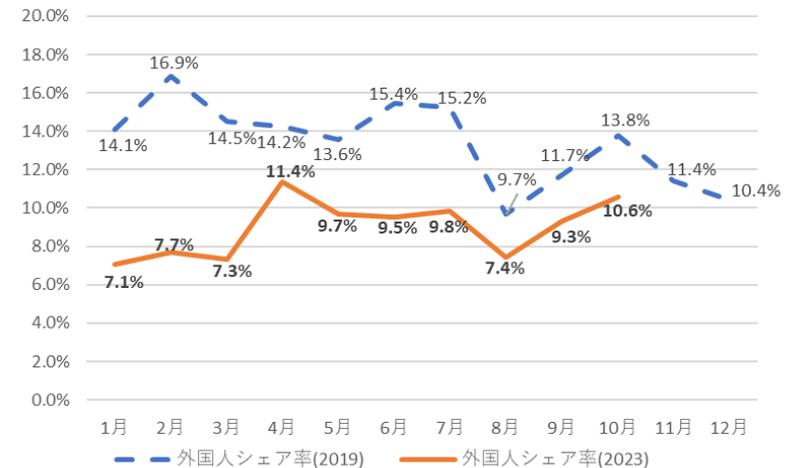
傾向・分析

- 神戸市全体延べ宿泊者数はコロナ前と同水準まで回復。
- コロナ前から、宿泊者数の約8～9割が国内旅行者であり、コロナが明けた2023年もその傾向に大きくは変動なし。
- 宿泊者数のうち、インバウンドのシェアに着目すると、コロナ前は約13%を占めていたインバウンドは、2023年では約10%前後となっている。

※コロナ前比較：2019.1～2019.12をベースに同月比較

出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
 ・令和5年10月 第2次速報値
 ※神戸市：第2次速報値を用いて神戸観光局で独自試算したもの

延べ宿泊者数（神戸市・外国人シェア率）

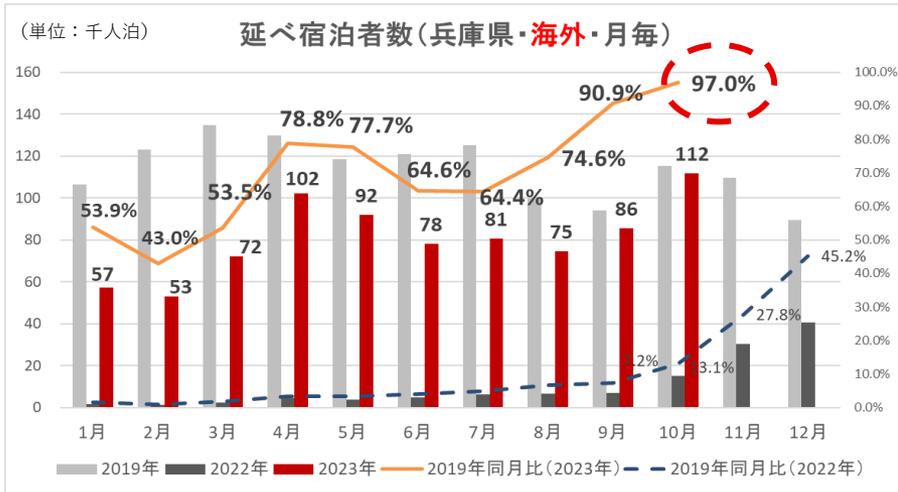


（参考）

兵庫県	コロナ前比	約113%（10月）
全国	コロナ前比	約107%（10月）

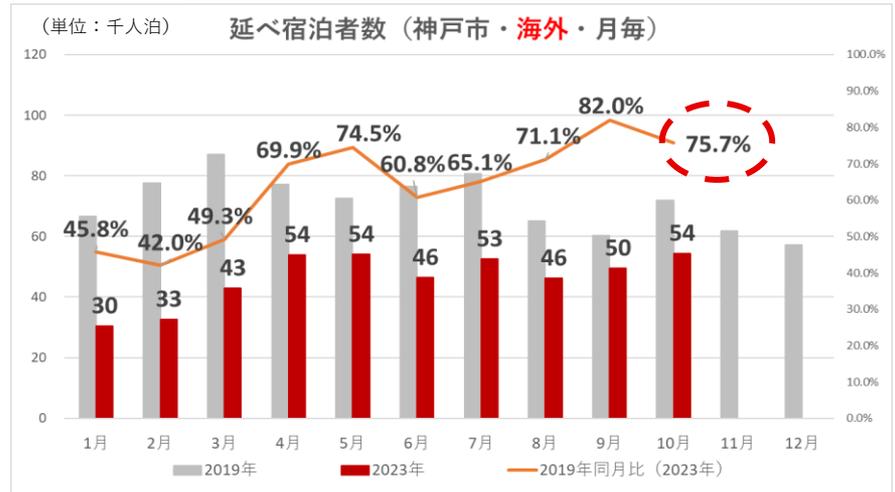
延べ宿泊者数の推移〔推計値〕【インバウンド分析①】

【兵庫県】

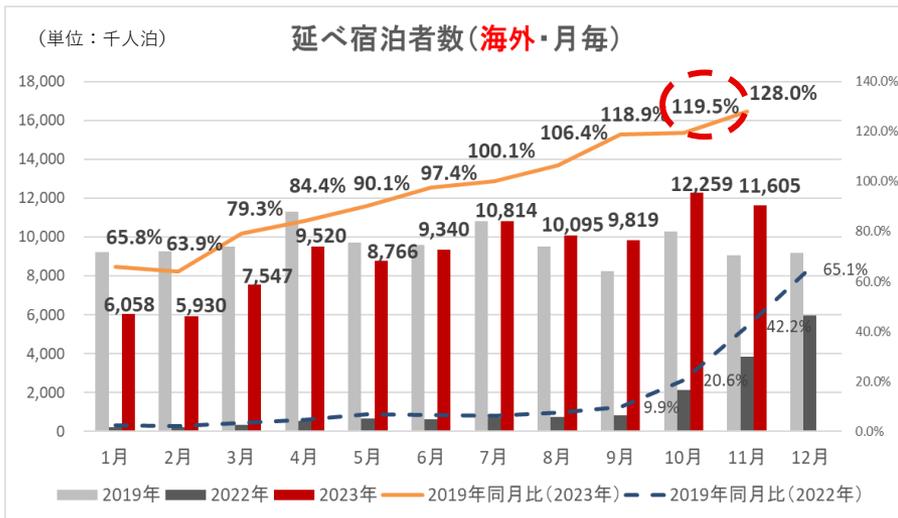


【神戸市】

※今月より神戸市の延べ宿泊者数の掲載を再開します。



【全国】



傾向・分析

神戸市	コロナ前比 約75% (10月)
兵庫県	コロナ前比 約97% (10月)
全国	コロナ前を超えて回復 (10月：119%)



※コロナ前比較：2019.1～2019.12をベースに同月比較

- 国籍別では、1位 韓国、2位 台湾、3位 中国。
JNTO 訪日外客数の伸びも著しい韓国は、2019年比約4倍の伸び。
- 兵庫県は、2019年10月比では**97%程度**と、ようやくコロナ前と同水準にまで回復した。(県内の他市の回復が好調と推測される)
- 神戸観光局の独自試算では、**神戸市の回復率は9月以降、2019年同月比約8～7割で推移**。2019年9～10月は、ラグビーWCの影響によりインバウンドが例年よりも増えていたため、2019年比回復率は伸び悩んだ。

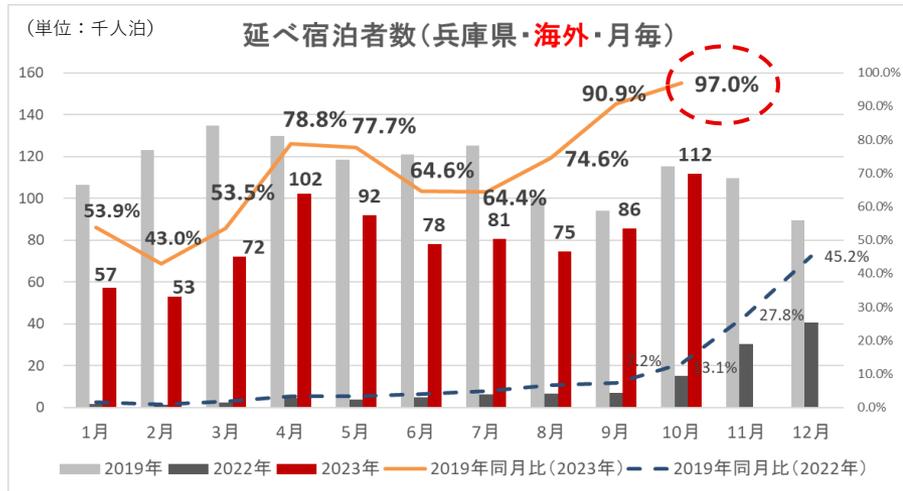
出典：【全国・兵庫県・神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」

- ・令和5年10月 第2次速報値
- ・令和5年11月 第1次速報値

※神戸市：第2次速報値を用いて神戸観光局で独自試算したもの

延べ宿泊者数の推移〔推計値〕【インバウンド分析②（周辺比較）】

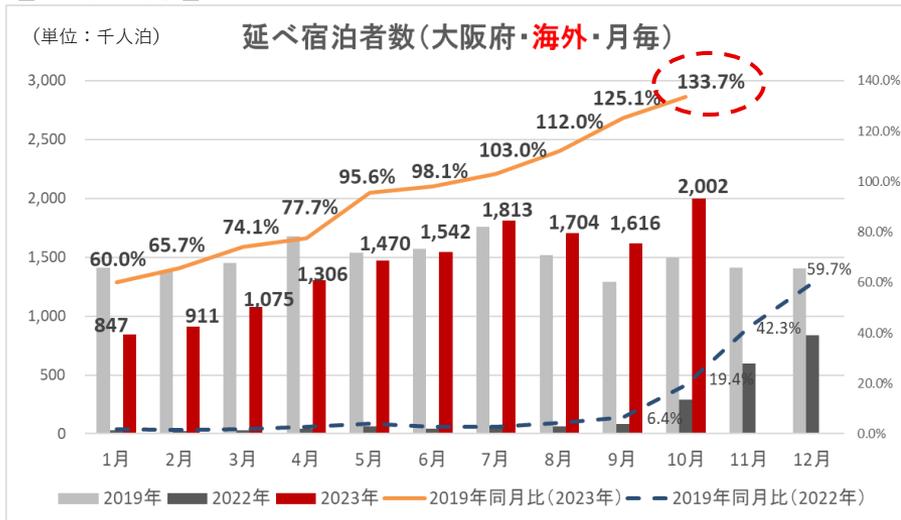
【兵庫県】



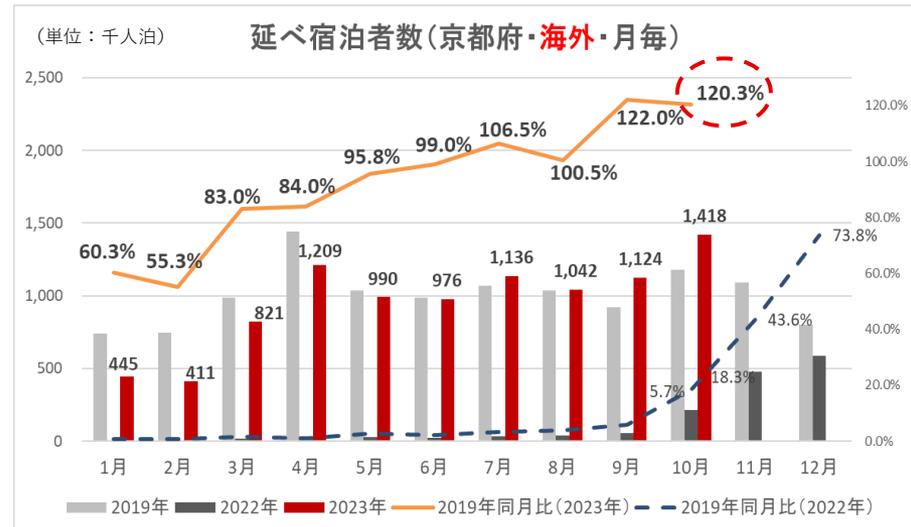
傾向・分析

- 都道府県別では、トップ3は、依然、**東京、大阪、京都**。
- 京阪神での比較では、大阪府が順調に推移しているのが分かる。京都府も多少の波はあるものの、秋以降は、コロナ前を上回る回復を見せた。京阪神の中では兵庫県は回復が遅く感じるものの、9月以降は大きく回復し、コロナ前と同水準に。

【大阪府】



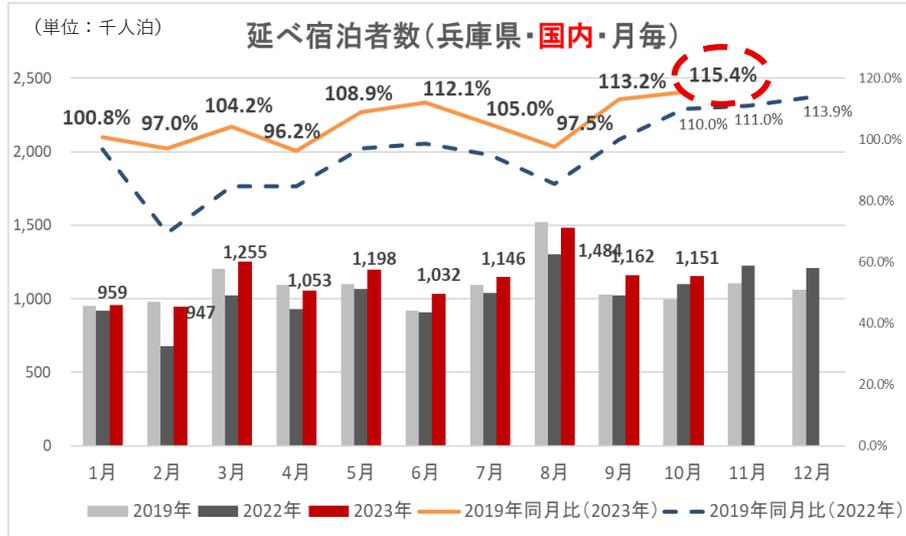
【京都府】



出典：【兵庫県・大阪府・京都府】観光庁「宿泊旅行統計調査」
 ・令和5年10月 第2次速報値
 ・令和5年11月 第1次速報値

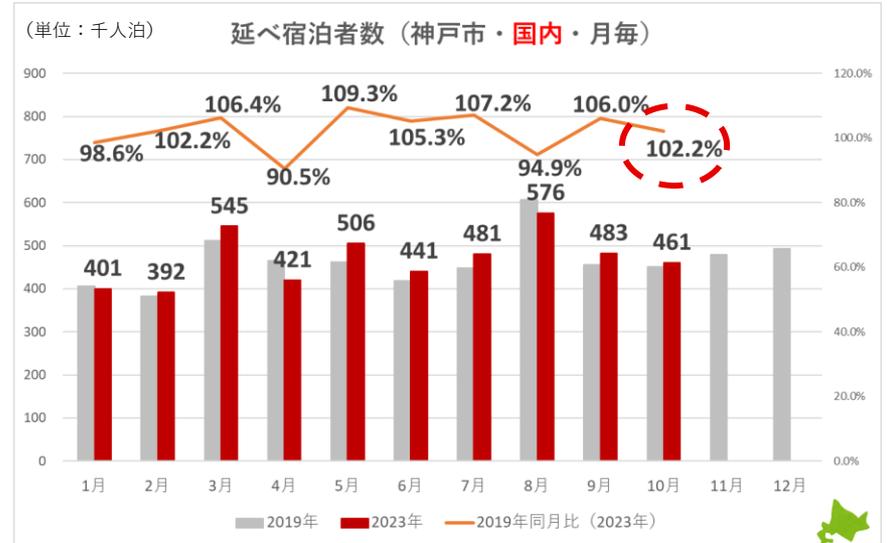
延べ宿泊者数の推移〔推計値〕【国内比較】 ※R5.10まで

【兵庫県】



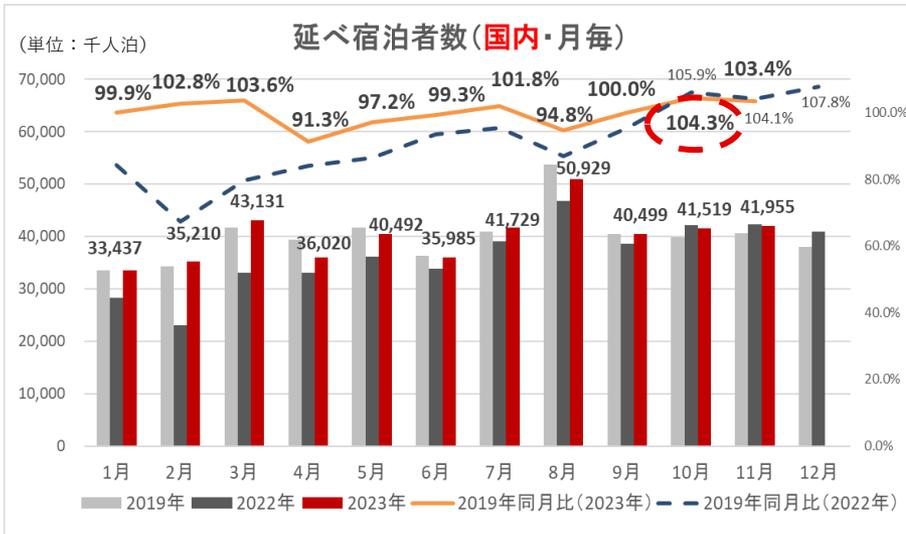
【神戸市】

※今月より神戸市の延べ宿泊者数の掲載を再開します。



【全国】

※R5.11推計値まで



傾向・分析

神戸市
・兵庫県
・全国

コロナ前比と同水準あるいは
コロナ前を超えて回復

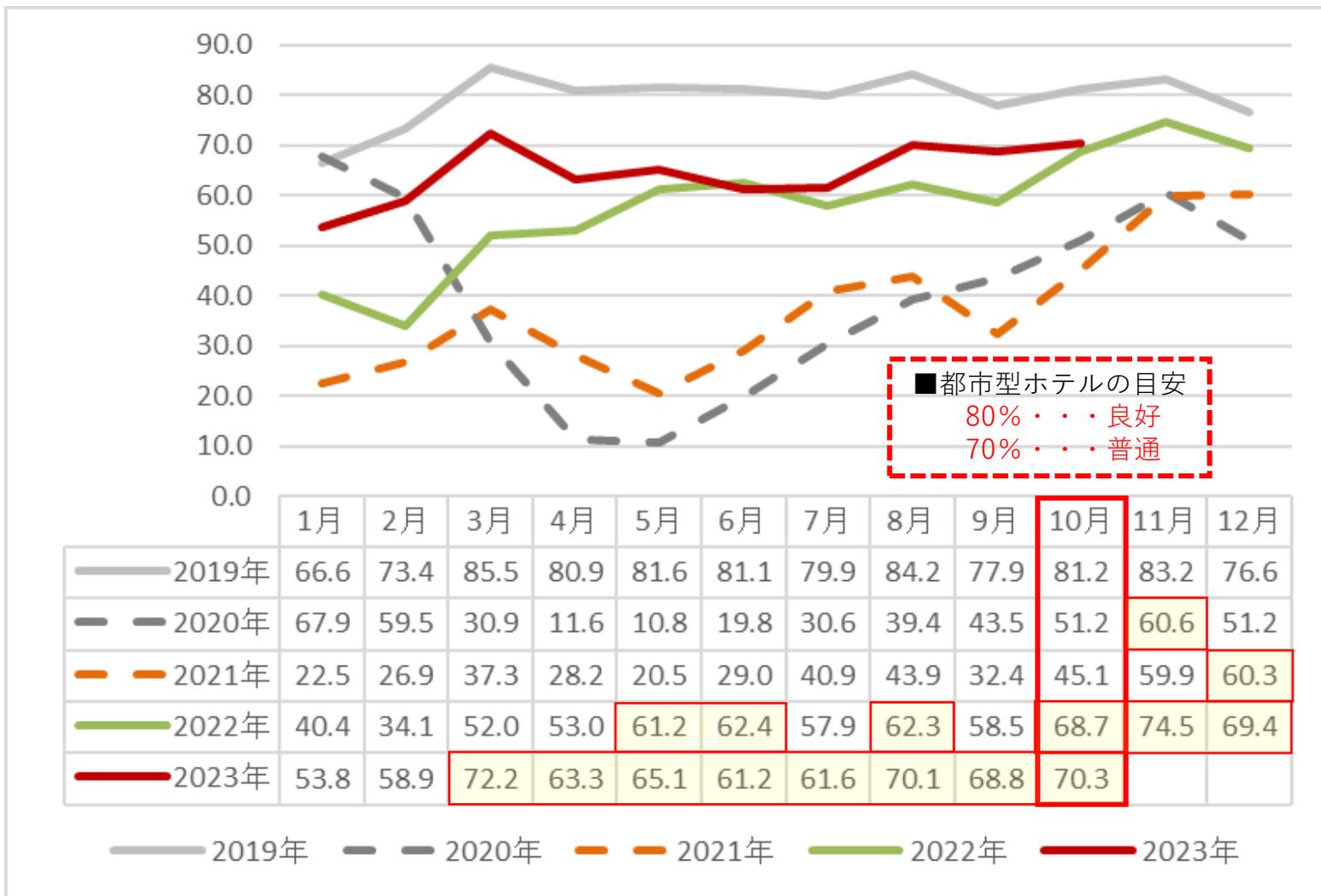
※コロナ前比較：2019.1～2019.12をベースに同月比較

■ 神戸市の回復率に比べて兵庫県の回復率が高いのは、
県内の他市の回復が好調であるためと推察される。

出典：【全国・兵庫県・神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
・令和5年10月 第2次速報値
・令和5年11月 第1次速報値

※神戸市：第2次速報値を用いて神戸観光局で独自試算したもの

市内ホテル平均稼働率



※10社ベース

【参考】英調査会社STR発表
11月 国内ホテル稼働率

全国：79.6%
(前月比 1.1pt)

11月のホテル平均稼働率は前月比1.1ポイント高い79.6%だった。新型コロナウイルス禍以降の最高値を10月に続き更新した。欧米からの長期滞在客や、アジアでは韓国や台湾からの訪日客の回復が進んでいる。日次の最高稼働率は11月3日の91.3%だった。連休初日の国内客の宿泊と重なり稼働率を押し上げている。11月の客室単価は1万9494円で前月比で3.7%上昇した。

インバウンド情報

(訪日外客数／ターゲット国の傾向分析)

2023年月別訪日外客数(対2019年比)

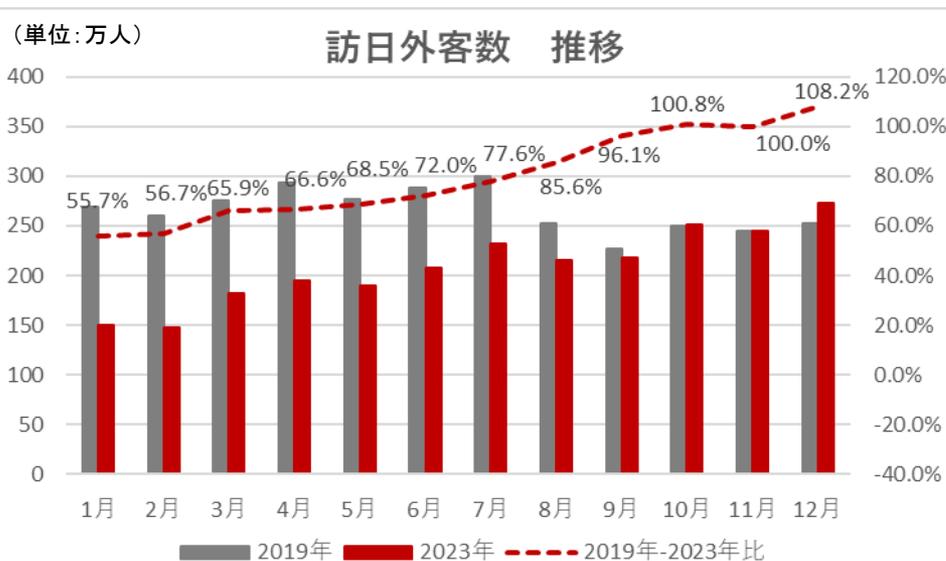


訪日外客数(全国)			
	2019	2023	2019比
10月	2,496,568名	2,516,623名	100.8%
11月	2,441,274名	2,440,800名	100.0%
12月	2,526,387名	2,734,000名	108.2%

- ・ **12月は2019年同月比の108%にあたる**273万人を記録し、コロナウイルス感染症拡大後で単月過去最多となるとともに、12月として過去最高を記録。
- ・ **2023年の累計は2500万人超**となり、コロナ前の2019年と比較して**年間で約8割の回復**。
- ・ **韓国がコロナ前同月の中国の外客数を超える**など、以前好調。その他、東アジアや東南アジア、北米豪など**12市場において、12月として過去最高値を記録**。
- ・ 一方で観光現場では、急速過ぎる来訪者の回復と人員不足とで、受入体制が追い付かない事態もあり、来訪者のマネジメントが課題になっている。

	訪日外客数 Visitor Arrivals		
	2019	2023	伸率 Change %
1	2,689,339	1,497,472	-44.3
Jan.	(2,345,029)	(1,308,606)	(-44.2)
2	2,604,322	1,475,455	-43.3
Feb.	(2,341,479)	(1,297,458)	(-44.6)
3	2,760,136	1,817,616	-34.1
Mar.	(2,411,650)	(1,582,518)	(-34.4)
4	2,926,685	1,949,236	-33.4
Apr.	(2,640,569)	(1,738,172)	(-34.2)
5	2,773,091	1,899,176	-31.5
May	(2,455,865)	(1,656,118)	(-32.6)
6	2,880,041	2,073,441	-28.0
Jun.	(2,614,533)	(1,882,296)	(-28.0)
7	2,991,189	2,320,694	-22.4
Jul.	(2,713,329)	(2,108,438)	(-22.3)
8	2,520,134	2,157,190	-14.4
Aug.	(2,206,746)	(1,897,129)	(-14.0)
9	2,272,883	2,184,442	-3.9
Sep.	(1,913,105)	(1,905,162)	(-0.4)
10	2,496,568	2,516,623	0.8
Oct.	(2,177,382)	(2,245,892)	(3.1)
11	2,441,274	2,440,800 *	0.0 *
Nov.	(2,145,425)		
12	2,526,387	2,734,000 *	8.2 *
Dec.	(2,292,029)		
1~12	31,882,049	25,066,100 *	-21.4 *
Jan.-Dec.	(28,257,141)		

訪日外客数のうち、*印の値は暫定値、その他の値は確定値。



2022.6.10～ 添乗員付きパッケージツアーに限定した訪日観光が再開。
 9/7～ ワクチン3回接種を条件に入国時陰性証明不要、添乗員無しパッケージツアーの容認、1日当たり入国上限を5万人に。
 10/11～ 1日当たりの入国者数の上限撤廃、短期ビザ免除、個人旅行解禁。入国時検査や待機もワクチン3回接種証明が陰性証明で原則撤廃。
 2023.4.29～ 新型コロナウイルス5類化に伴い、日本の出入国者に求めているワクチン3回接種証明や陰性証明の提出が不要に。
 ○水際対策(厚労省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html

出典: 日本政府観光局(JNTO)1/17プレスリリース「訪日外客数(2023年12月推計値)」

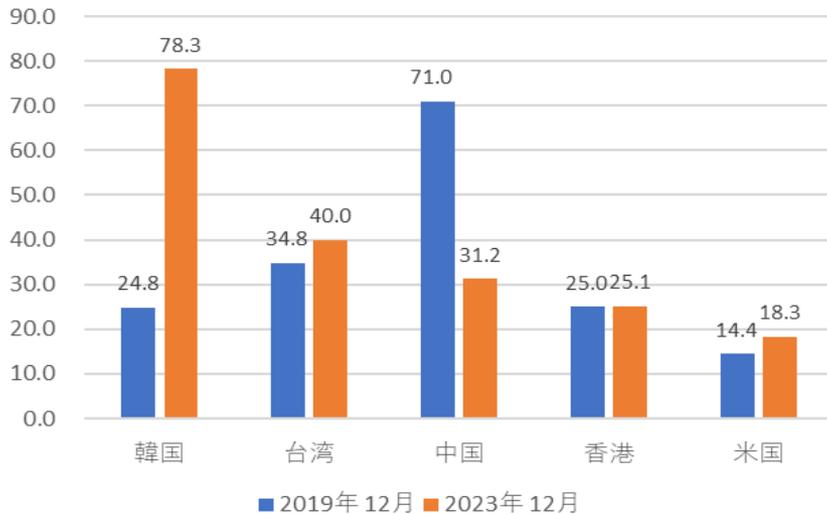
2023年12月訪日外客数の各国・地域別ランキング(対2019年比)

国・地域	総数				2023 総数			
	2019年 12月	2023年 12月	(順位)	2019比 (%)	2019年 1月～12月	2023年 1月～12月	(順位)	2019比 (%)
韓国	247,959人	782,700人	(1位)	315.7%	5,584,597人	6,958,500人	(1位)	124.6%
台湾	348,269人	399,500人	(2位)	114.7%	4,890,602人	4,202,400人	(2位)	85.9%
中国	710,234人	312,400人	(3位)	44.0%	9,594,394人	2,425,000人	(3位)	25.3%
香港	249,642人	251,100人	(4位)	100.6%	2,290,792人	2,114,400人	(4位)	92.3%
米国	144,498人	183,200人	(5位)	126.8%	1,723,861人	2,045,900人	(5位)	118.7%



引き続き韓国がコロナ前と比較して約3倍。韓国は、2019年12月の中国より多い外客数を記録。

訪日外客数 各国・地域別ランキング



12月動向

- 12月の訪日外客数は、2019年同月比108.2%となる2,734,000人と新型コロナウイルス感染症拡大後で単月過去最多となるとともに、12月として過去最高を記録した。
- 23市場のうち12市場（韓国、台湾、香港、シンガポール、インドネシア、ベトナム、インド、豪州、米国、カナダ、メキシコ、中東地域）において12月として過去最高を記録したほか、香港、シンガポール、インドネシア、豪州では単月過去最高を更新した。特に、東アジアでは韓国や台湾、欧米豪・中東地域においては米国などで訪日外客数が増加したことが、今月の押し上げ要因となった。
- また、2023年の年間訪日外客数は、25,066,100人となった。4月の水際措置撤廃以降、訪日外客数は右肩上がり急回復を遂げ、単月では10月に初めて2019年同月比100%を超えており、年間累計では2019年比78.6%と8割程度まで回復が進んだ。
- 昨年3月に策定された第4次観光立国推進基本計画では3つの柱「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」が示されるとともに、旅行消費額・地方部宿泊数等に関する新たな政府目標が掲げられているところ、これらの実現に向けて、市場向を綿密に分析しながら、戦略的な訪日旅行プロモーションに取り組んでいく。

交通機関に関する情報
(航空業界の状況／クルーズ船寄港状況)

関西国際	2023年 9月	10月	11月
総旅客数(人)	2,101,187	2,279,864	2,245,578
2019年比	▲15%	▲10%	▲12%
国際線 発着数(回)	9,918	10,361	10,422
2019年比	▲22%	▲19%	▲19%
国際線 旅客数(人)	1,494,602	1,658,340	1,685,084
2019年比	▲20%	▲15%	▲1%
うち外国人 旅客数(人)	1,114,589	1,328,258	1,312,630
2019年比	▲4%	+1%	▲1%
国内線 旅客数(人)	606,585	621,524	560,494
2019年比	+2%	+10%	▲1%

神戸	2023年 9月	10月	11月
国内線 発着数(回)	2,897	3,090	3,084
2019年比	+4%	+11%	+9%
国内線 旅客数(人)	296,352	312,315	289,069
2019年比	▲2%	+6%	▲3%

< 関西国際空港・神戸空港の状況 >

- ・ 11月の関西国際空港における航空旅客数は、前月比98.4%。コロナ禍前（2019年比）88%。
- ・ 外国人旅客数の10月は前月比99.8%。2019年のコロナ禍前の同月比を1%下回る人数となった。
- ・ 神戸空港発着回数は、2019年比109%、前月比99.8%。旅客数は2019年比97%となり、若干の減少であるが、前年同月比は101%で、コロナ禍前の水準を維持している。
- ・ 神戸空港で、2019年と比較して利用率が特に低かったのは高知（48.8%）、青森（57.3%）、花巻（59.5%）。

直近1年間の関西国際空港・神戸空港の利用状況は [45ページ](#)、
2023年11月までの神戸空港就航都市路線別旅客数・利用率は [46ページ](#)へ



出典：関西エアポートニュースリリースより作成

※国内線旅客数は発着者数計、国際線旅客数は出入国者数計となります。

関空国際線就航状況・入国状況 ～KTBターゲット12か国～ 1月24日時点

国際線就航状況 (便数)	2020年1月	2023年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年1月
英国	3	0	0	0	0	0	0	0
フランス	6	4	4	4	3	3	3	3
豪州	12	5	7	7	7	5	7	7
米国	78	11	11	14	14	14	14	12
中国	630	157	197	213	227	221	198	253
台湾	169	94	112	119	112	112	112	112
香港・マカオ	117	96	94	96	134	124	122	124
韓国	244	296	263	310	325	313	338	347
タイ	47	42	42	43	47	47	49	52
マレーシア	14	18	18	21	21	21	21	21
インドネシア	9	0	0	0	0	0	0	0
シンガポール	116	21	21	21	21	28	28	35

※1週間に就航している便数

ターゲット12か国合計、前月比108%

便数前月比

中国が127%の増便。

※1月24日現在の運行状況
(過去の月は本レポート更新時の運行状況)

出典: 関西エアポート発表情報より作成

入国状況 (人数)	2020年1月	2023年7月	8月	9月	10月
英国	3,526	3,618	3,087	3,829	4,715
フランス	2,271	4,556	3,866	3,567	5,495
豪州	11,956	4,118	3,498	10,448	9,018
米国	12,756	20,859	13,484	14,876	20,187
中国	328,191	124,678	151,351	127,624	96,536
台湾	102,205	99,848	100,327	94,542	109,055
香港	51,421	61,447	57,539	41,114	49,361
韓国	85,174	190,709	173,645	190,900	210,581
タイ	22,458	14,669	9,105	16,044	36,049
マレーシア	11,684	5,167	5,883	9,465	15,581
インドネシア	8,866	6,226	4,349	7,105	8,295
シンガポール	6,237	6,290	4,706	10,300	13,296

ターゲット12か国合計、前月比109%

- ランキング及び前月比
 - ・1位 韓国：110%
 - ・2位 台湾：115%
 - ・3位 中国：76%
- 韓国が20万人を超える。2020年1月比247%。
- 中国が前月比76%に減少、処理水放出の影響で団体旅行にキャンセルが見受けられた。
- タイからの入国者数が前月比225%と増加。

前月比 109.7%

※2023.12月速報値
関空入国者数：721,677人 (11月：663,795人 10月：665,571人)

出典: 総務省「出入国管理統計」より抜粋

【クルーズ船寄港状況】 ポートターミナル・中突堤

		12月分					累計				
		R5年度	R4年度	R1年度	前年比	R1年度比	R5年度	R4年度	R1年度	前年比	R1年度比
総合計	隻数	11	12	15	92%	73%	114	119	150	96%	76%
	船客数	9,040	4,213	12,642	215%	72%	93,071	26,683	180,727	349%	51%

ポートターミナル		12月分					累計				
		R5年度	R4年度	R1年度	前年比	R1年度比	R5年度	R4年度	R1年度	前年比	R1年度比
合計	隻数	7	12	7	58%	100%	81	111	94	73%	86%
	船客数	6,882	4,213	3,368	163%	204%	75,438	22,875	142,298	330%	53%
日中国際フェリー (新釜真・蘇州號)	隻数	4	5	3	80%	133%	38	52	28	73%	136%
	船客数	0	0	202	-	0%	0	0	2,526	-	0%
日本船 (内航)	隻数	0	7	2	0%	0%	7	53	11	13%	64%
	船客数	0	4,213	1,133	0%	0%	6,587	18,387	7,385	36%	89%
日本船 (外航)	隻数	0	0	0	-	-	0	2	3	0%	0%
	船客数	0	0	0	-	-	0	20	1,262	0%	0%
外国籍船	隻数	3	0	2	-	150%	36	4	52	900%	69%
	船客数	6,882	0	2,033	-	339%	68,851	4,468	131,125	1541%	53%

中突堤ターミナル		12月分					累計				
		R5年度	R4年度	R1年度	前年比	R1年度比	R5年度	R4年度	R1年度	前年比	R1年度比
合計	隻数	4	0	8	-	50%	33	8	56	413%	59%
	船客数	2,158	0	9,274	-	23%	17,633	3,808	38,429	463%	46%
日本船 (内航)	隻数	4	0	7	-	57%	18	3	42	600%	43%
	船客数	2,158	0	8,818	-	24%	10,070	773	29,813	1303%	34%
日本船 (外航)	隻数	0	0	1	-	0%	3	0	5	-	60%
	船客数	0	0	456	-	0%	1,869	0	2,286	-	82%
外国籍船	隻数	0	0	0	-	-	12	5	9	240%	133%
	船客数	0	0	0	-	-	5,694	3,035	6,330	188%	90%

■全体

12月はR4年度比で隻数▲1、船客は4,827。R1年度比で隻数▲4、船客は3,602。

日本船寄港については例年の12月と比較すると、一昨年末の「ぱしふいっくびいなす」の撤退や、「飛鳥II」の長期ドック入りの影響があり、クリスマスクルーズのシーズンではあるが寄港は少なかった。

■ポートターミナル

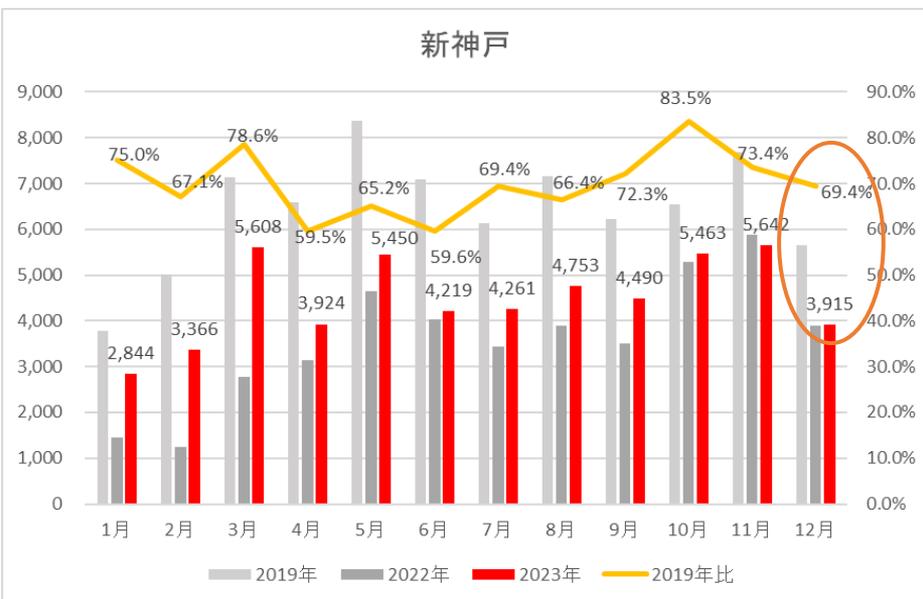
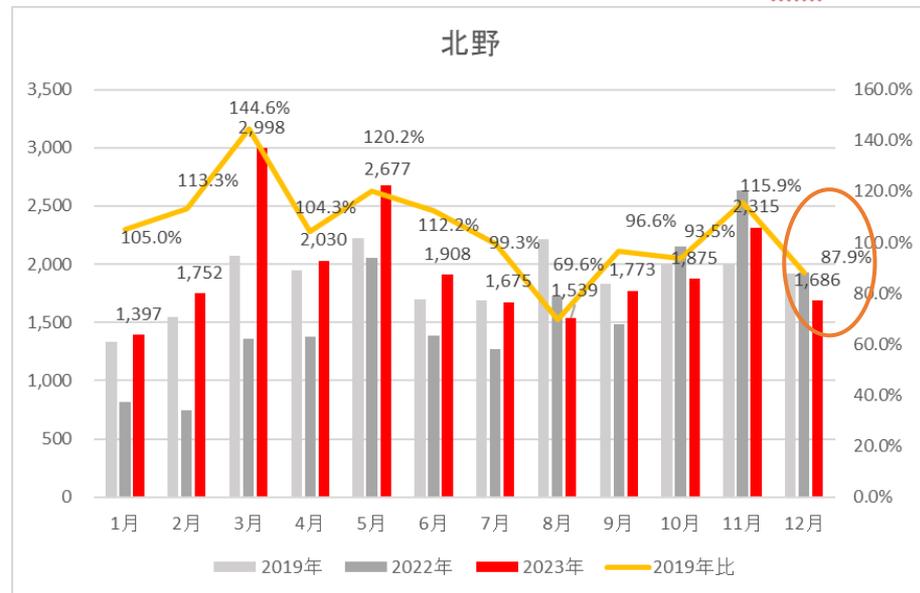
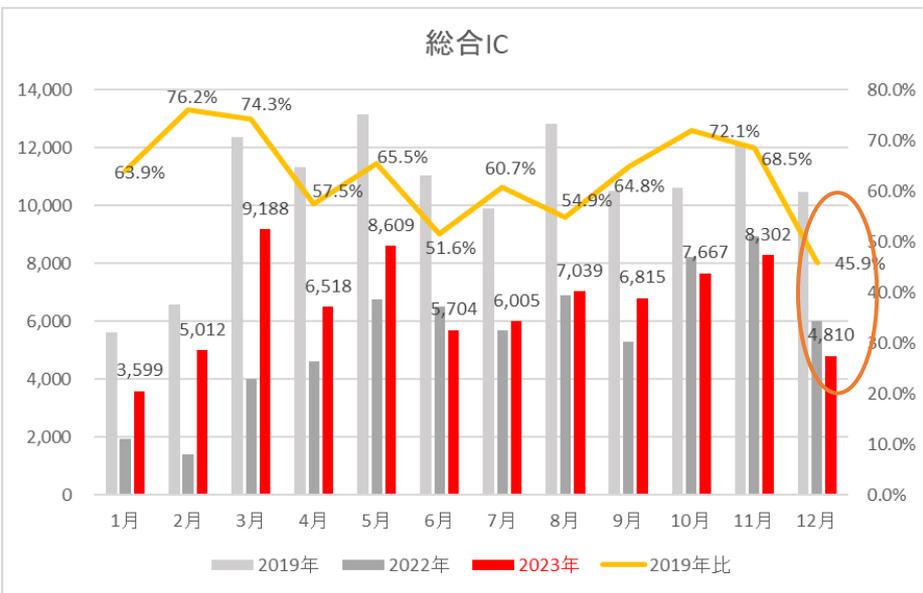
12月の入港実績は7。内訳は定期船の日中国際フェリーが4、外国船の「PACIFIC WORLD」が2、「MSC BELLISSIMA」1。

■中突堤

12月の入港実績は「にっぽん丸」の4。

神戸市内観光に関する情報
～神戸観光局オリジナルデータ～

市内観光案内所 国内観光客案内件数 (2023.12)



○総合インフォメーションセンター (JR三宮駅東口南)

ルミナリエを開催していた2019年と比べると45.9%の来観客数。

○北野観光案内所 (北野異人館街)

「風見鶏の館休館」が大きく影響した。

○新神戸駅観光案内所 (JR新神戸駅構内、改札前)

年末年始も神戸ビーフやハーブ園へのアクセスなど、定番の案内が続いている。

12月案内所全体件数 10,411件 ⇒ 前月比 64% 2019年比 57.7%

○ 総合インフォメーションセンター

9-18時の時短営業

- 〔件数状況〕 ・ 12月中下旬~1月中旬は平日170件ほど・休日220件ほど。
- 〔客層〕
- ・ 国内年配者、中高年の女性グループ・ベリッシマ乗船客、家族連れ。
 - ・ インバウンドは、アジア系（韓国・台湾・香港）が中心。
- 〔行き先〕
- ・ 国内、有馬・イルミナージュ・県立美術館・どうぶつ王国・森林植物園・再度公園など。
 - ・ アジア系、六甲山などの夜景・どうぶつ王国・アウトレット・市内観光（スマパス利用）。
 - ・ 欧米系、六甲山・ポートタワー・ハーバーランド・弓削牧場・人と防災未来センターなど。
- 〔内容〕
- ・ あなたを忘れない**ロケ地マップ**の要望多数、「茶屋マップ」の要望も多い。
 - ・ この時期は「**人と防災未来センター**」への案内、なかでも**欧米人が目立つ**。
 - ・ 開催日が近づくにつれ、ルミナリエに関する問い合わせが多数。

通所営業時間

9-18時（3月~10月）

9-17時（11月~2月）

○ 北野観光案内所

- 〔客数状況〕 ・ 12月中下旬~1月中旬は平日90件ほど・土日120件ほど。
- 〔客層〕
- ・ 国内、40~50代女性のグループ・大阪など近畿圏以外では、名古屋・横浜・愛媛など。
 - ・ インバウンドは、韓国・中国・台湾・香港・タイ・インドネシア・アメリカ・イギリスなど。
- 〔行き先〕
- ・ 国内、スターバックス・夜景やイルミネーションのスポット・北野天満神社・港エリアなど。
 - ・ アジア系、各異人館・ハーブ園・スターバックス・ループバスで市内観光など。
 - ・ 欧米系、ハーブ園、うろこの家・淡路島方面へ行かれる方など。
- 〔内容〕
- ・ 「**北野工房のまち**」閉館前に訪れる方がおられた。
 - ・ 冬休みの大学生や帰省中に訪れるお客様の来館があった。

○ 新神戸駅観光案内所

9-17時の通常営業

- 〔客数状況〕 ・ 12月中下旬~1月中旬は平日80件ほど、土日120件ほど。
- 〔客層〕
- ・ 国内、冬休み中のファミリー層・1~2名の少人数での来所も多い
 - ・ インバウンドは、アジア系中心、南米系の来訪もあった。ファミリー目立つ。
- 〔行き先〕
- ・ 国内、布引の滝・ハーブ園・北野・ハイキング案内・淡路島など。
 - ・ 外国人、布引の滝・ハーブ園の案内多数。市内観光・六甲山牧場・アウトレット・有馬など。
- 〔内容〕
- ・ 年末年始の帰省ラッシュで構内が賑わう。冬休み中は子供が楽しめる施設の質問。
 - ・ 震災に関する問い合わせが多く、震災慰霊碑の場所や**ルミナリエに関する情報問い合わせ**など。

市内観光案内所 国籍別窓口対応状況 (2023.12)

国・地域		総合IC	北野	新神戸
アジア	韓国	380	150	51
	中国	450	85	72
	台湾	205	67	50
	香港	190	66	19
	タイ	134	17	82
	シンガポール	131	23	139
	マレーシア	86	14	50
	インドネシア	31	5	31
	フィリピン	40	6	76
	ベトナム	10		6
	インド	14		11
	パキスタン	1		
	バングラデシュ			
	その他アジア	1205	1	184
中東	イスラエル	2		4
	トルコ			
	イラン			
	その他中東	9		
ヨーロッパ	英国	4	8	9
	フランス	10	12	32
	イタリア		2	4
	ロシア			
	ギリシャ			
	アイルランド			
	その他ヨーロッパ	199	7	30
アフリカ	南アフリカ共和国			2
	エジプト			
	その他アフリカ			1
北アメリカ	米国	50	10	63
	カナダ	13	7	14
	メキシコ	3		10
	その他北米			1
南アメリカ	ブラジル	2		4
	アルゼンチン	1		
	コロンビア			
	その他中南米	5		4
オセアニア	オーストラリア	15	9	71
	ニュージーランド		4	4
	その他オセアニア			
地域不明			3	291
		(人) 3190	496	1315

〔総合ICより概況〕

- ・外国籍利用者3,190人、前月比82.8%。
コロナ禍以前2019年同月比64.5%。
- ・日本人観光客が少ない中、アジア系観光客（韓国・香港・台湾）が非常に多かった。観光周遊バスを利用している市内観光や、人気の施設「神戸どうぶつ王国」の企画切符を購入する家族連れが目立った。**欧米系は全くのノープラン**でお勧めの観光地を尋ねる方がほとんど。
- ・外国客船の入港もあったが、ツアーバスを利用して関西エリアを観光される方が多かったようだ。

〔北野観光案内所より概況〕

- ・外国籍利用者496人、前月比105%。
コロナ禍以前2019年同月比60%。
- ・アジア系が約90%、うち韓国35%、中国20%、台湾15%、欧米系少ない。
- ・質問、ご要望は日本人と大差なくマップのご希望（母国語あるいは英語版）がほとんど。
- ・特にトイレの場所案内、他は喫煙・ATMの設置場所問合せが多い。

〔新神戸観光案内所より概況〕

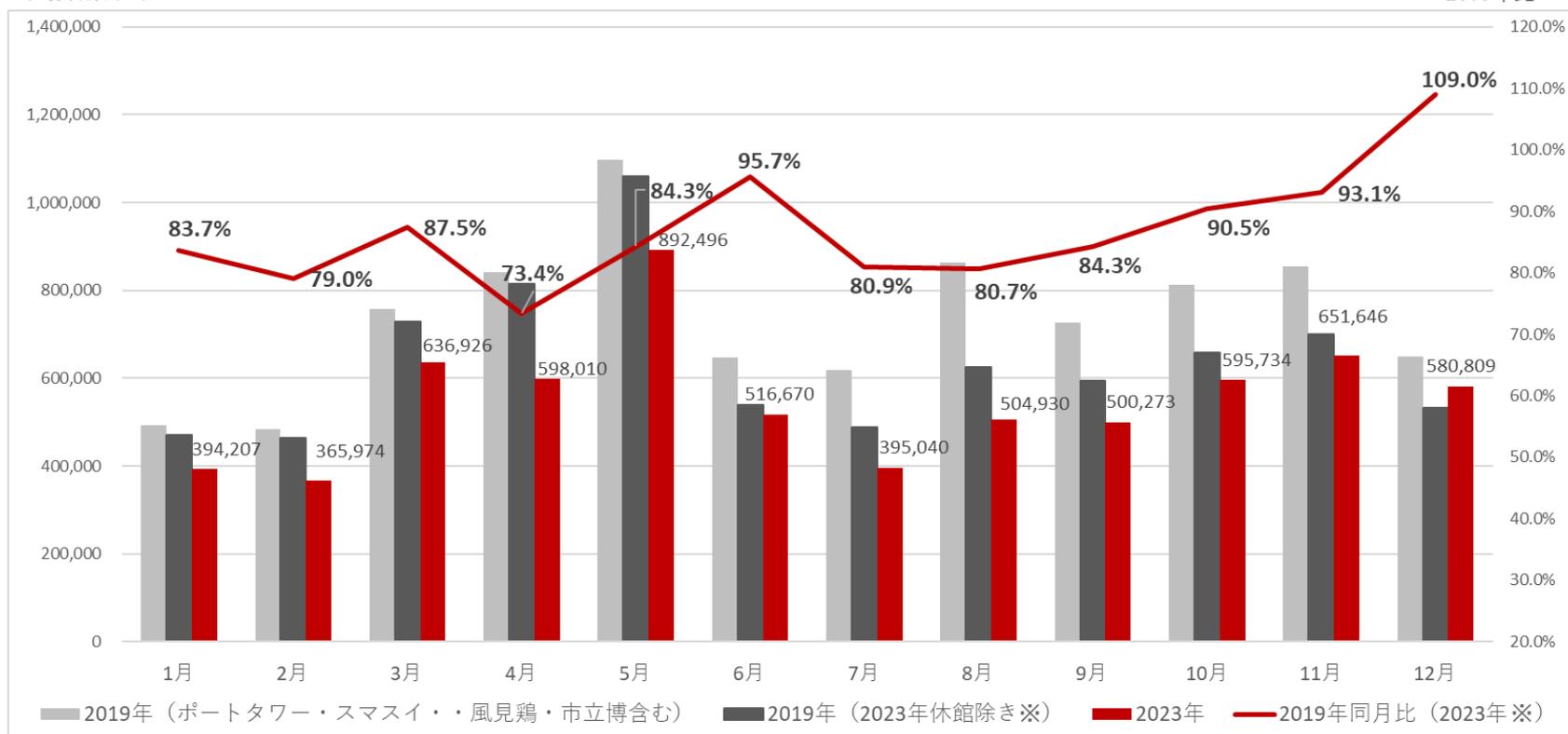
- ・外国籍利用者1,315人、前月比75.5%。
コロナ禍以前2019年同月比188%。
- ・「市内観光」については、定番の質問のほかに、神戸ビーフと夜景のために来た、神戸ビーフの牛がみたい、クリスマスマーケットはどこ？ 子供と一緒に楽しめるところ。純喫茶、ハイキングルートの情報（布引ハーブ園、摩耶山、大龍寺）が欲しいなど。
- ・季節的に、**アジア系の方がスノーパーク**へ行かれることが多い。
「食」に関しては、ベジタリアンレストラン、日本式の焼肉どこ？ 餅をみたい、市場・商店街をみたいなど。

12月案内所全体件数 5,001件 ⇒ 前月比82.4%
2019年比77.8%

主要市内観光施設来場者数（2023.12）

- ・12月の来場者数は、コロナ前を超える109%で推移。冬休みや年末年始により観光客増加。一方、屋外がメインの施設は季節的な気温の低下により客足が遠のいているのを感じている。
- ・回復率（2019年比）は施設ごとに少しばらつきがあるが、約60%～120%のところが多い。
- ・インバウンドは台湾、韓国が中心。海外からの団体客増加を感じる施設も。

来場者数(人)



※2019年比は、比較時点で改修中の施設除いて比較（2023年通年：ポートタワー、2023年6月～：スマスイ、2023年10月～：風見鶏の館、神戸市立博物館）
 ※2019年の来場者数は、2023年時点で改修中の施設を含んだグラフと、含まないグラフ両方を掲載。

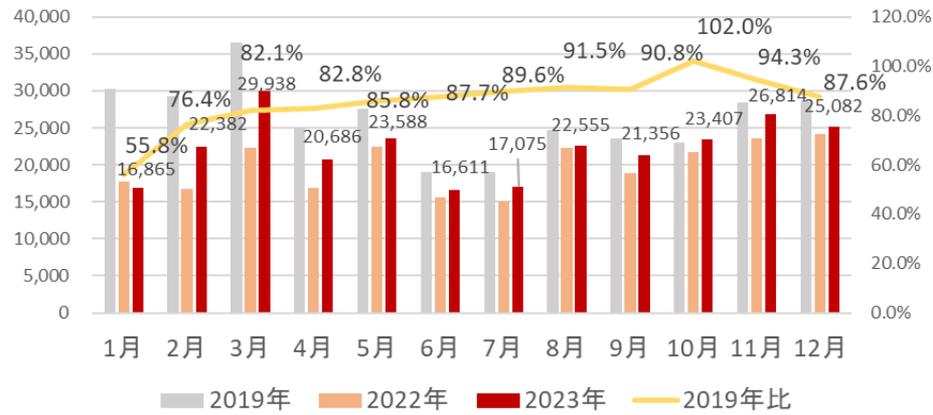
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1～12月計
2019年 (ポートタワー・スマスイ・風見鶏・市立博含む)	492,867	483,116	757,624	841,024	1,096,996	647,632	618,160	864,393	727,418	811,994	854,900	650,164	8,846,288
2019年 (2023年休館除き※)	471,003	463,021	727,912	814,300	1,058,835	539,885	488,325	625,884	593,288	658,334	700,275	532,960	7,674,022
2023年	394,207	365,974	636,926	598,010	892,496	516,670	395,040	504,930	500,273	595,734	651,646	580,809	6,632,715
2019年同月比 (2023年) ※	83.7%	79.0%	87.5%	73.4%	84.3%	95.7%	80.9%	80.7%	84.3%	90.5%	93.1%	109.0%	

出典：神戸市観光企画課・神戸観光局調査

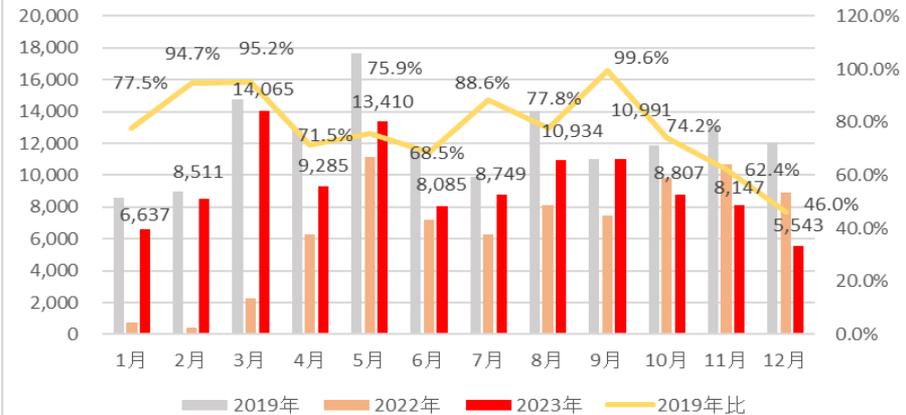
集計対象施設：全19施設（ラインの館、北野工房のまち、王子動物園、神戸どうぶつ王国、神戸布引ハーブ園、六甲山牧場、金の湯、銀の湯、道の駅フルーツ・フラワーパーク大沢など）

所管施設入館者数（金の湯・銀の湯） / （萌黄の館）

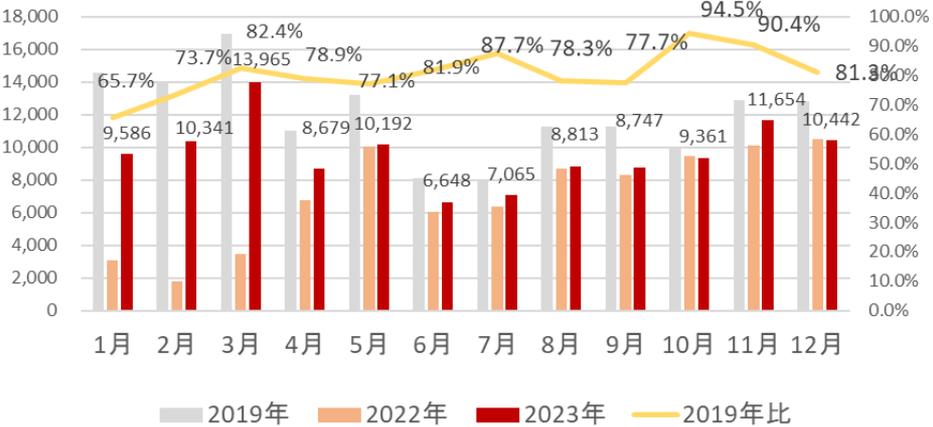
金の湯



萌黄の館



銀の湯



【コメント】
 今月は、10月より休館している「風見鶏の館」休館が大きく影響した。（2019年比 46%）

【コメント】
 本来閑散期である12月になっても、平日・休日ともに外国人利用者が目立った



神戸市内大型施設の主な催事情報(2～3月) 1月22日時点

※1,000名以上収容可能施設から主なイベント情報を抽出
 ※コンサート等については、アーティスト名のみを表記
 ※神戸観光局経営推進部調べ



2月	神戸国際会議場	神戸国際展示場	ワールド記念ホール	こくさいホール	神戸文化ホール※一部抜粋	総合運動公園 ※一部抜粋
1週目	1～7日 関西大学入学試験	1～7日 関西大学入学試験	3日 =LOVEアリーナツア-2024「Tell me what's more than "LOVE"」			
2週目		4～6日 2024年度 同志社大学一般選抜入学試験 8日 マイナビ就職直前フェア 9～10日 2024年度 同志社大学一般選抜入学試験	10～11日 Bリーグ 2023-24 B2リーグ 戦 第21節 神戸ストークスVS. 青森ワッツ	4日 めいちゃん		10～18日 第18回兵庫オープンテニス選手権大会 (ベテラン)
3週目	17～18日 日本臨床心理学会第59回大会	16～18日 ワールドアトリエセール		11日 AI「RESPECT ALL」TOUR 17～18日 Hello! Project 2024 winter ～THREE OF US	11～12日 神韻2024 日本公演	11日 兵庫県柔道グランプリ2023 17～18日 兵庫県総合ハンドボール選手権大会
4週目	20日 わたしのキャリア研究会「企業座談会」 24～25日 第38回日本がん看護学会学術集会	24～25日 第38回日本がん看護学会学術集会		23日 我ら演歌第7世代！スペシャルコンサート 2024 24日 手嶌葵 CONCERT 2024 ～Trio～	18日 「音楽のまち神戸」スペシャルコンサート-酒井麻生代 meets 広瀬未来カルテット 2024	24～25日 JFA第29回全日本フットサル選手権神戸ラウンド 24～25日 第53回春季ジュニアテニス選手権大会U-14
5週目				25日 TM NETWORK 27日 梅沢富美男&研ナオコ アッ!とおどろく『夢芝居』2024		
3月	神戸国際会議場	神戸国際展示場	ワールド記念ホール	こくさいホール	神戸文化ホール※一部抜粋	総合運動公園 ※一部抜粋
1週目	2日 第127回近畿救急医学研究会	2日 福祉の就職総合フェア in HYOGO	2～3日 Kep1er JAPAN FAN CONCERT 2024 < FLY-HIGH >		2日 神戸市混声合唱団 春の定期演奏会『アメリカ!アメリカ!』	2日 令和5年度第6回神戸市卓球リーグ 男子1～6部
2週目	3日 国際協力70周年記念事業キックオフ・イベント in kobe 6日 マイナビ就職WEB EXPO 兵庫会場 8～10日 第88回日本循環器学会学術集 (JCS2024) The 88th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2024)	5日 マイナビ就職EXPO兵庫会場 8～10日 第88回日本循環器学会学術集 (JCS2024) The 88th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2024)	9～10日 MEGA VEGAS 2024	3日 MONGOL800 7日 CHEMISTRY 9日 三山ひろし	6日 細川たかし 長山洋子 ～ふたりのピックアップ～ 9日 神戸市室内管弦楽団 第161回定期演奏会『ラヴェルに乾杯!』	3日 第12回神戸チャレンジカップ (空手) 9～10日 KOBE自他共栄CUP学生柔道大会
3週目	11～15日 言語処理学会第30回年次大会 (NLP2024)		16～17日 Bリーグ 2023-24 B2リーグ 戦 第26節 神戸ストークスVS. 新潟アルビレックスBB	10日 藤井フミヤ 16日 三世代ファミリーコンサート	16日 清水ミチコアワー ～ひとり祝賀会～	15～17日 FUTSAL KOBE FESTA 2023 16～17日 第53回春季ジュニアテニス選手権大会U-16
4週目	17～19日 第65回日本植物生理学会年会 22～23日 第37回日本四肢再建・創外固定学会学術集会	17日 シンデレラ☆ステージ12STEP 19日 マイナビ就職セミナー合同会社説明会 19日 マイナビ福祉・介護業界就職セミナー	23日 RIZIN.46	20日 TBS日曜劇場「VIVANT」オーケストラコンサート 23日 ディズニー・ワールド・ビート 2024:Music Journey～世界の旅へ!	20日 第十六回 神戸能	22～24日 Vカップ (バレーボール) 29日 令和5年度市卓球選手権大会 (高校) 30日 兵庫県ヤングクラブバレーボール選手権大会
5週目			27日 Bリーグ 2023-24 B2リーグ 戦 第28節 神戸ストークスVS. 愛媛オレンジバイキングス 30～31日 Bリーグ 2023-24 B2リーグ 戦 第29節 神戸ストークスVS. ベルテックス静岡	24日 UNICORN 26日 舟木一夫 30日 錦戸亮 31日 BEGIN	24日 合唱団ユーカリブタス 第12回定期演奏会 27日 PIBC兵庫 2024 30～31日 現代版組踊 息吹神戸公演	28～31日 第53回春季ジュニアテニス選手権大会U-18

※各催事の集客予定人数・販売状況については、当方および各施設・主催者にお問い合わせいただいても一切お答えできません。

參考資料集

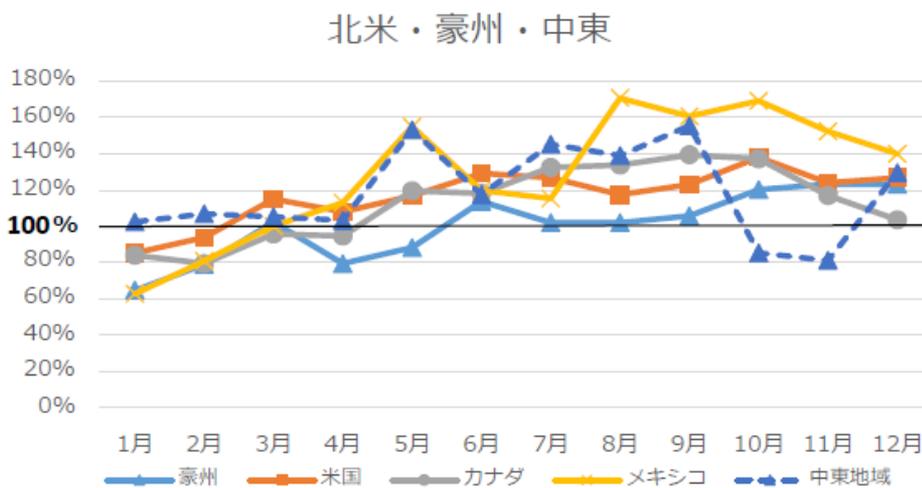
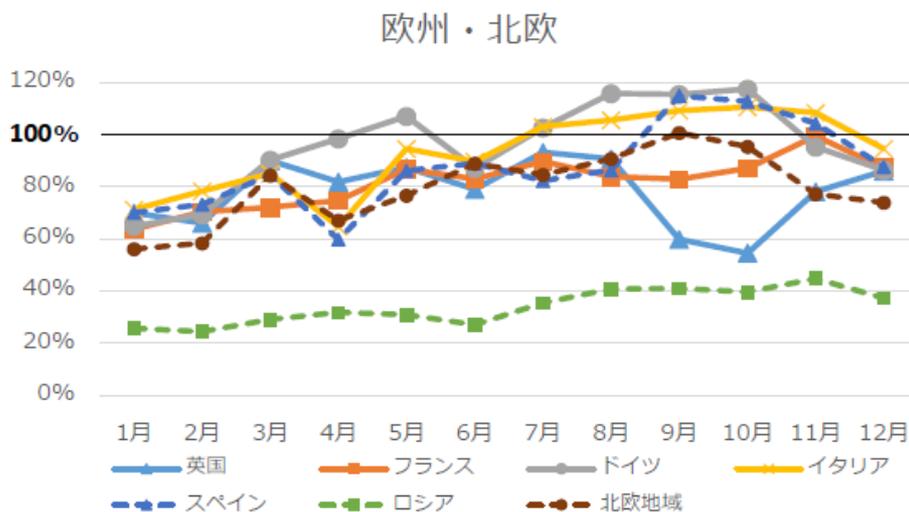
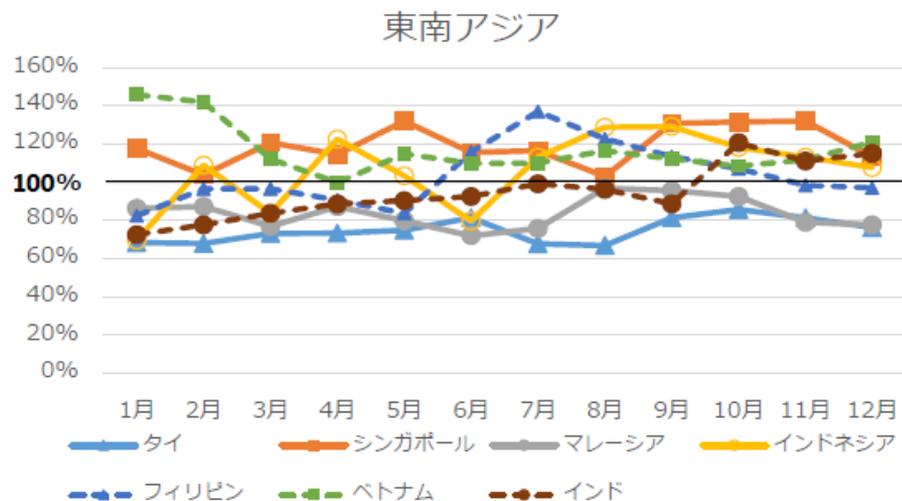
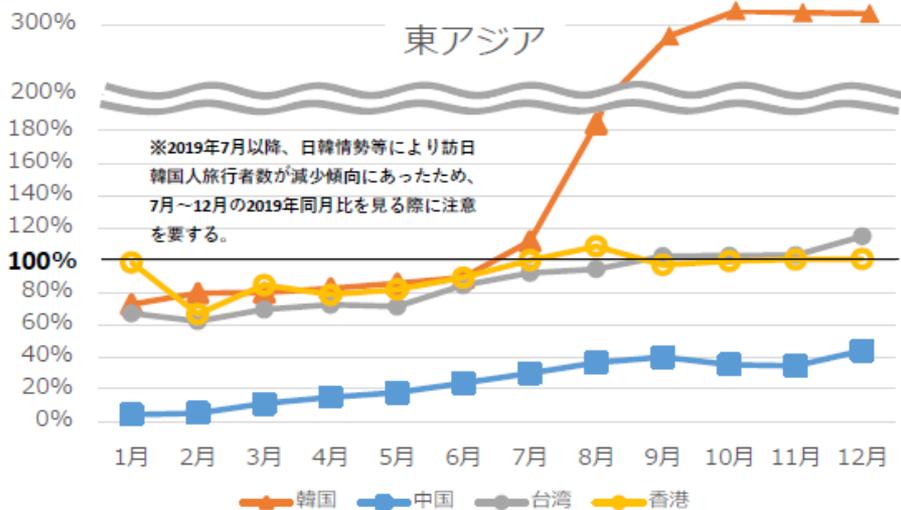
2023年12月訪日外客数の各国・地域別の内訳(対2019年比)

国・地域	Country/Area	総数 Total			総数 Total		
		2019年 12月	2023年 12月	伸率(%)	2019年 1月～12月	2023年 1月～12月	伸率(%)
総数	Grand Total	2,526,387	2,734,000	8.2	31,882,049	25,066,100	-21.4
韓国	South Korea	247,959	782,700	215.7	5,584,597	6,958,500	24.6
中国	China	710,234	312,400	-56.0	9,594,394	2,425,000	-74.7
台湾	Taiwan	348,269	399,500	14.7	4,890,602	4,202,400	-14.1
香港	Hong Kong	249,642	251,100	0.6	2,290,792	2,114,400	-7.7
タイ	Thailand	164,936	125,800	-23.7	1,318,977	995,500	-24.5
シンガポール	Singapore	100,376	113,700	13.3	492,252	591,300	20.1
マレーシア	Malaysia	78,250	60,800	-22.3	501,592	415,700	-17.1
インドネシア	Indonesia	59,203	63,700	7.6	412,779	429,400	4.0
フィリピン	Philippines	81,542	79,100	-3.0	613,114	622,300	1.5
ベトナム	Vietnam	30,606	37,000	20.9	495,051	573,900	15.9
インド	India	11,739	13,500	15.0	175,896	166,300	-5.5
豪州	Australia	72,653	89,500	23.2	621,771	613,100	-1.4
米国	U.S.A.	144,498	183,200	26.8	1,723,861	2,045,900	18.7
カナダ	Canada	35,132	36,400	3.6	375,262	425,900	13.5
メキシコ	Mexico	6,499	9,100	40.0	71,745	94,700	32.0
英国	United Kingdom	27,750	23,900	-13.9	424,279	321,500	-24.2
フランス	France	20,261	17,700	-12.6	336,333	277,400	-17.5
ドイツ	Germany	13,639	11,800	-13.5	236,544	233,400	-1.3
イタリア	Italy	11,196	10,600	-5.3	162,769	152,400	-6.4
スペイン	Spain	7,295	6,400	-12.3	130,243	115,900	-11.0
ロシア	Russia	8,833	3,300	-62.6	120,043	42,000	-65.0
北欧地域	Nordic Countries	9,873	7,300	-26.1	141,004	113,000	-19.9
中東地域	Middle East	5,554	7,200	29.6	95,160	109,600	15.2
その他	Others	80,448	88,300	9.8	1,072,989	1,026,600	-4.3

※2023年5月の公表から、北欧地域(スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド)の推計値の公表を開始。

※中東地域はイスラエル、トルコ、GCC6か国(サウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)、バーレーン、オマーン、カタール、クウェート)

2022年12月～2023年12月訪日外客推移（2019年同月比）



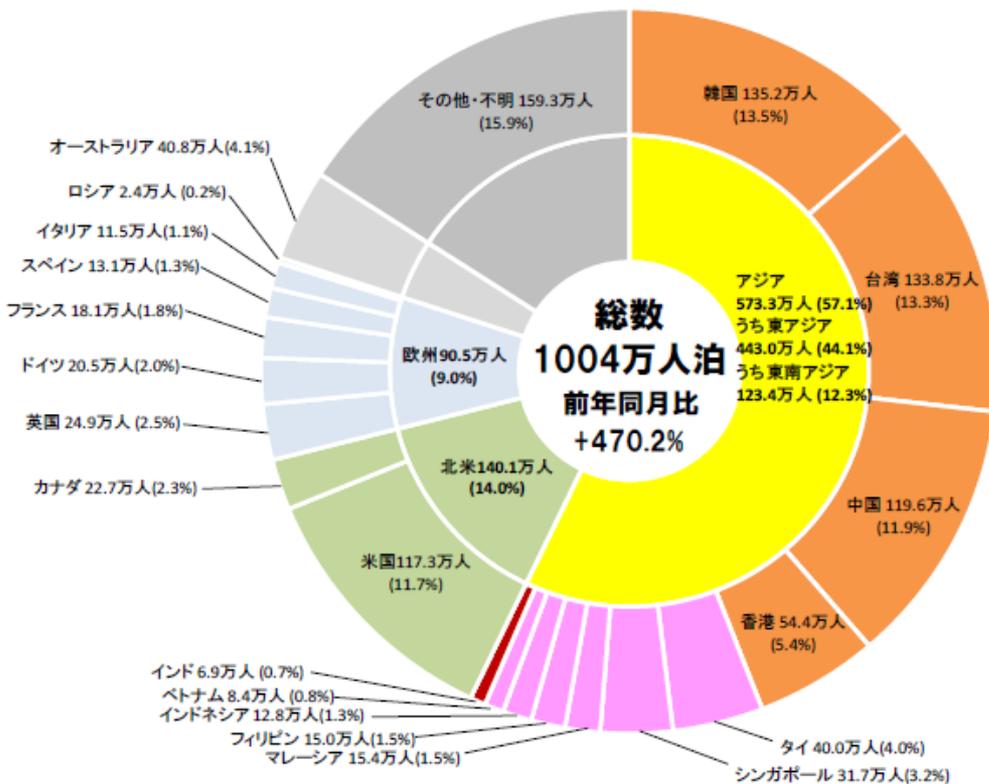
(注) 2020年から拡大した新型コロナウイルスによる影響を除くため、2019年の数値と比較している。

国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数（R5.10月）



- 令和5年10月の国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数は、第1位が韓国、第2位が台湾、第3位が中国、第4位が米国、第5位が香港で、上位5ヵ国・地域で全体の55.8%を占める。
- 韓国が1位となり着実な回復が見られる。多くの国で2019年を上回る回復率を見せており、特に2019年同月比で最も伸びたのは韓国(2019比+291.4%増)、続いてカナダ(+79.8%増)、アメリカ(+69.4%増)。

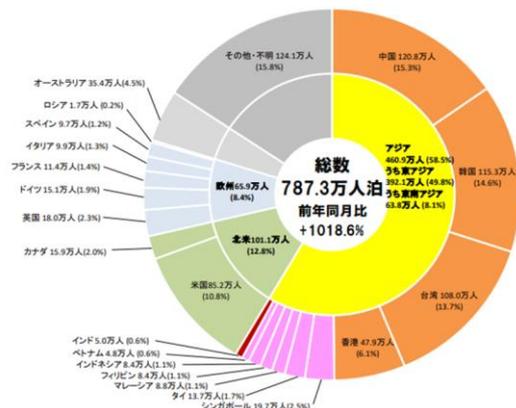
国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数（2023年10月（第2次速報））



順位	国籍（出身地）	合計		2019年同月比	前年同月比
		(人泊)	シェア		
第1位	韓国	1,352,120	13.5%	+291.4%	+424.7%
第2位	台湾	1,338,310	13.3%	+14.9%	+1421.2%
第3位	中国	1,195,620	11.9%	-48.6%	+1062.7%
第4位	米国	1,173,270	11.7%	+69.4%	+310.4%
第5位	香港	543,950	5.4%	+1.8%	+425.3%
第6位	オーストラリア	407,950	4.1%	+27.2%	+734.9%
第7位	タイ	399,680	4.0%	+6.1%	+296.0%
第8位	シンガポール	317,440	3.2%	+55.4%	+324.6%
第9位	英国	249,160	2.5%	-45.4%	+456.9%
第10位	カナダ	227,360	2.3%	+79.8%	+637.5%
第11位	ドイツ	205,190	2.0%	+34.7%	+398.6%
第12位	フランス	180,750	1.8%	-7.9%	+304.0%
第13位	マレーシア	154,300	1.5%	+24.0%	+505.1%
第14位	フィリピン	149,940	1.5%	+33.3%	+371.5%
第15位	スペイン	131,220	1.3%	+50.5%	+880.7%
第16位	インドネシア	128,120	1.3%	+31.4%	+411.7%
第17位	イタリア	115,320	1.1%	+33.8%	+508.2%
第18位	ベトナム	84,300	0.8%	+18.2%	+261.6%
第19位	インド	69,140	0.7%	+34.0%	+277.4%
第20位	ロシア	23,670	0.2%	-52.3%	+277.5%
	その他	1,141,080	11.4%	+1.0%	+314.8%
	合計	10,039,960	100.0%	+13.5%	+470.2%

【参考】前月分

国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数（2023年9月（第2次速報））



※ 合計は国籍（出身地）不詳を含む。
 ※ 従業者数10人以上の施設に対する調査から作成。
 ※ 2019年同月比及び前年同月比は、確定値との比較である。

都道府県別外国人延べ宿泊者数 (2023.8~2023.10)



(延べ宿泊者数単位：人泊)

【順位】

順位	8月			9月			10月		
	都道府県	延べ宿泊者数	2019年同月比	都道府県	延べ宿泊者数	2019年同月比	都道府県	延べ宿泊者数	2019年同月比
1	13東京都	3,755,730	156.6%	13東京都	3,860,080	166.7%	13東京都	4,545,380	168.5%
2	27大阪府	1,704,020	112.0%	27大阪府	1,615,710	125.1%	27大阪府	2,001,520	133.7%
3	26京都府	1,041,810	100.5%	26京都府	1,124,210	122.0%	26京都府	1,417,920	120.3%
4	01北海道	616,810	95.4%	47沖縄県	429,560	65.3%	01北海道	523,450	94.9%
5	47沖縄県	464,070	59.0%	01北海道	409,780	96.3%	40福岡県	459,370	112.9%
6	40福岡県	439,750	145.7%	40福岡県	392,650	165.7%	47沖縄県	420,920	70.1%
7	12千葉県	296,850	72.1%	14神奈川県	232,250	87.5%	12千葉県	332,150	86.1%
8	14神奈川県	260,070	89.0%	12千葉県	230,950	66.5%	14神奈川県	280,500	88.8%
9	23愛知県	161,430	51.7%	23愛知県	166,810	64.3%	23愛知県	200,750	67.4%
10	34広島県	133,050	126.7%	34広島県	121,470	130.1%	34広島県	157,190	95.5%
11	44大分県	100,250	145.2%	19山梨県	96,580	76.1%	20長野県	152,070	127.9%
12	19山梨県	98,260	55.2%	44大分県	94,770	180.0%	21岐阜県	139,220	87.7%
13	22静岡県	93,870	37.1%	17石川県	88,040	131.4%	19山梨県	135,620	90.3%
14	43熊本県	89,700	131.3%	22静岡県	86,540	39.7%	17石川県	131,770	123.2%
15	17石川県	80,660	117.6%	28兵庫県	85,590	90.9%	43熊本県	118,000	127.1%
16	21岐阜県	74,750	62.9%	21岐阜県	78,950	76.9%	28兵庫県	111,640	97.0%
17	28兵庫県	74,550	74.6%	43熊本県	75,400	132.5%	44大分県	109,280	77.3%
18	20長野県	63,820	82.7%	20長野県	70,320	95.4%	22静岡県	103,510	45.9%
19	04宮城県	47,540	101.8%	30和歌山県	49,660	99.1%	04宮城県	72,170	105.4%
20	30和歌山県	46,550	94.4%	09栃木県	42,440	190.3%	09栃木県	70,570	123.3%
21	42長崎県	40,290	79.3%	37香川県	42,340	68.1%	37香川県	66,150	58.7%
22	29奈良県	32,650	61.4%	04宮城県	40,080	87.8%	02青森県	64,190	90.4%
23	37香川県	32,080	45.4%	42長崎県	35,310	94.2%	03岩手県	60,440	108.9%
24	33岡山県	29,820	69.2%	33岡山県	28,530	84.2%	42長崎県	49,380	104.9%
25	09栃木県	29,000	145.2%	29奈良県	26,430	63.5%	30和歌山県	48,100	68.7%
26	46鹿児島県	25,920	46.9%	46鹿児島県	24,540	45.0%	33岡山県	39,510	78.9%
27	03岩手県	22,530	93.6%	25滋賀県	20,980	77.8%	46鹿児島県	35,300	46.0%
28	02青森県	20,440	68.2%	08茨城県	20,920	121.5%	16富山県	34,840	102.8%
29	25滋賀県	20,370	76.6%	03岩手県	20,070	132.0%	29奈良県	32,900	73.3%
30	11埼玉県	16,570	102.9%	15新潟県	18,560	111.5%	25滋賀県	32,080	92.9%

順位	8月			9月			10月		
	都道府県	延べ宿泊者数	2019年同月比	都道府県	延べ宿泊者数	2019年同月比	都道府県	延べ宿泊者数	2019年同月比
31	38愛媛県	16,260	95.0%	02青森県	17,790	81.0%	24三重県	30,040	83.5%
32	08茨城県	14,200	90.9%	24三重県	16,870	80.0%	10群馬県	27,820	120.9%
33	39高知県	13,980	152.8%	07福島県	15,730	173.0%	07福島県	27,280	102.5%
34	15新潟県	13,600	74.4%	39高知県	15,250	228.6%	15新潟県	25,620	114.5%
35	24三重県	13,030	37.0%	38愛媛県	14,800	108.9%	38愛媛県	24,310	112.8%
36	07福島県	12,830	100.6%	16富山県	14,720	65.8%	08茨城県	23,390	89.1%
37	10群馬県	12,780	85.5%	11埼玉県	13,810	78.2%	11埼玉県	20,530	98.8%
38	41佐賀県	12,590	55.5%	10群馬県	12,990	70.9%	06山形県	20,450	103.8%
39	16富山県	11,440	48.0%	41佐賀県	11,220	63.7%	05秋田県	18,780	73.8%
40	36徳島県	11,310	88.7%	36徳島県	10,610	110.2%	39高知県	18,020	176.3%
41	05秋田県	9,850	85.8%	45宮崎県	8,370	39.0%	36徳島県	16,760	120.9%
42	31鳥取県	9,330	72.8%	31鳥取県	7,330	73.4%	41佐賀県	15,460	72.0%
43	06山形県	7,210	76.0%	05秋田県	7,290	69.1%	45宮崎県	11,010	39.1%
44	35山口県	6,230	96.3%	06山形県	6,810	67.6%	35山口県	9,940	152.0%
45	45宮崎県	6,130	29.8%	35山口県	6,760	109.9%	18福井県	8,670	108.2%
46	32島根県	5,950	88.5%	18福井県	5,000	77.0%	31鳥取県	8,340	59.1%
47	18福井県	5,160	83.0%	32島根県	4,600	75.9%	32島根県	6,620	59.1%
全国		10,095,050			9,819,470			12,258,920	

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」(令和5年10月・第2次速報)

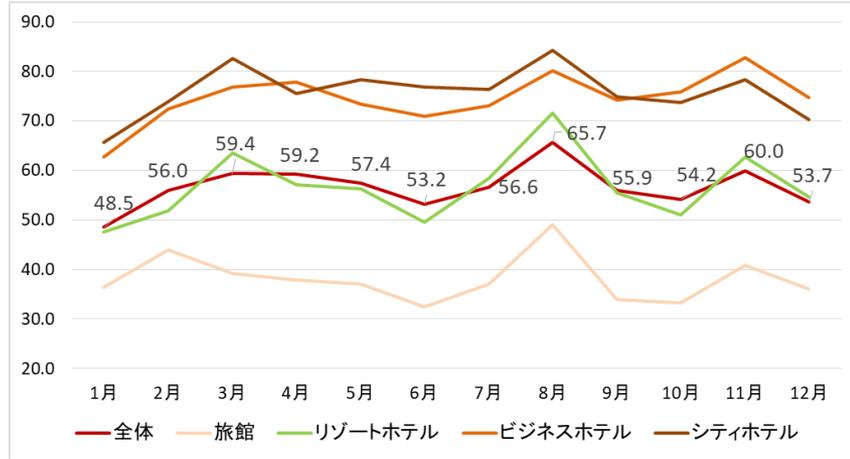
- 外国人延べ宿泊者数のトップ3は、4月以降、東京、大阪、京都。これらトップ3はコロナ前を超えて回復。
- 兵庫県は、2019年10月比では97%程度の回復率と、ようやくコロナ前までと同水準に回復した。
- 神戸と同様に政令市の横浜市、名古屋市がある神奈川県、愛知県は、それぞれ約8割、約6割の回復率となるなど、依然、地域によってばらつきが生じている。

宿泊タイプ別客室稼働率

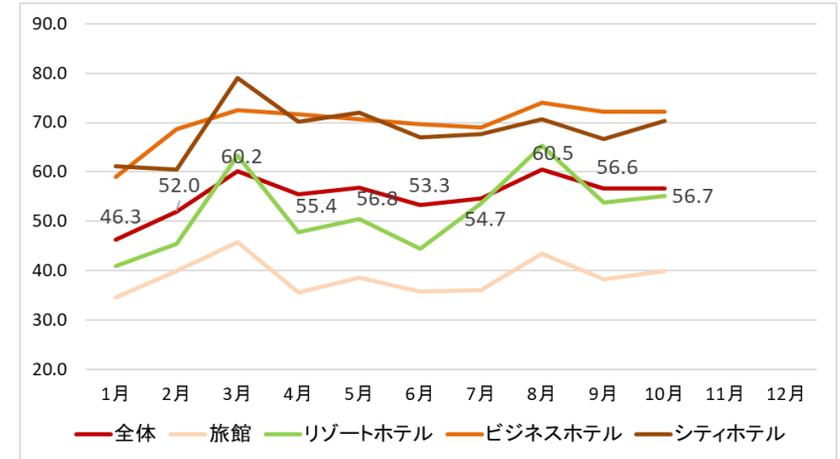
2019年／2023年比較

【兵庫県】

(2019年)

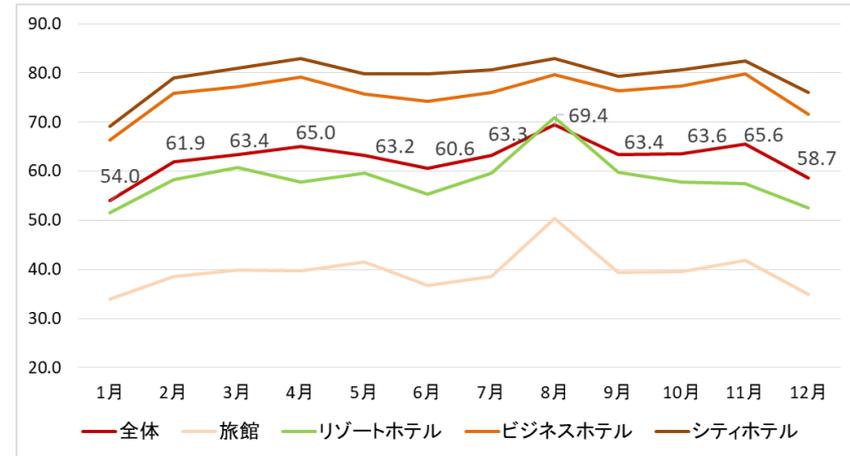


(2023年)

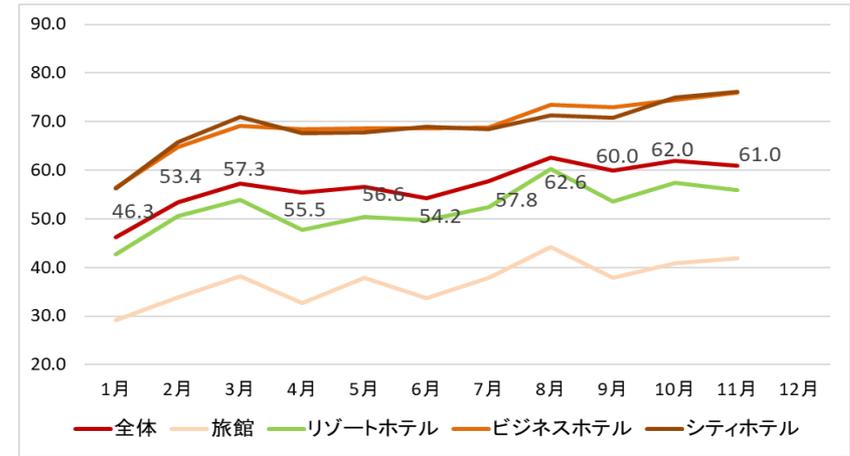


【全国】

(2019年)



(2023年)



世界の運航状況

2019年1月1週目比 2023年1月1週目比

地域	2019年1月1週目比	2023年1月1週目比
世界	-0.2%	2.3%
西欧	8.7%	3.5%
東欧	-14.6%	5.5%
北米	4.3%	2.0%
中米	10.5%	6.5%
南米	6.8%	-0.4%
東アジア	-3.5%	1.5%
東南アジア	-18.4%	3.2%
中東	-0.9%	1.7%
太平洋(豪州ほか)	0.0%	2.4%

出典: OAG FLIGHT DATAより抜粋・算出

<https://www.oag.com/coronavirus-airline-schedules-data?hsLang=en-gb>

世界の運航状況は、2023年通年で55億4,300万の座席数で、2019年比▲3.7%となり、昨年より+7.2%上回る見込み。

世界の座席利用率(2023年11月)

※ポイントは2019年同月差

地域	合計	国際線	国	国内線
アジア・太平洋	81.4% 0.0p	82.6% 2.6p	日本	80.0% 1.3p
欧州	83.7% 0.2p	83.3% -0.8p	中国	77.4% -5.8p
北米	82.7% 0.8p	80.0% -1.3p	インド	86.2% -3.6p
中南米	84.4% 2.1p	84.9% 2.7p	米国	83.7% 1.5p
中東	77.7% 4.4p	77.4% 4.2p	豪州	85.3% 1.8p
合計	81.8% 0.8p	78.6% -1.3p	合計	82.4% 0.2p

出典: IATA「Air Passenger Market Analysis」より抜粋

- ・ 11月は業界全体の航空交通量が急速に増加した。
- ・ RPKは前年比130%、2019年比99%となっている。

※RPK (Revenue Passenger-Kilometers)

各有償旅客が搭乗し、飛行した距離の合計。 有償旅客数×輸送距離

関西国際空港・神戸空港の利用状況(2022年12月～2023年11月) 1月9日時点



関西国際	2022年 12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
総旅客数(人)	1,352,147	1,390,798	1,456,834	1,756,841	1,651,773	1,808,219	1,892,675	2,123,912	2,265,940	2,101,187	2,279,864	2,245,578
2019年比(%)	-47	-47	-42	-39	-40	-34	-30	-24	-29	-15	-10	-12
国際線 発着数(回)	6,242	6,227	6,197	7,496	8,227	8,660	8,786	9,663	9,903	9,918	10,361	10,422
2019年比(%)	-55	-55	-48	-44	-38	-36	-34	-30	-28	-22	-19	-19
外国人 旅客数(人)	663,438	753,219	736,776	808,116	960,417	989,324	1,095,837	1,202,909	1,211,871	1,114,589	1,328,258	1,312,630
2019年比(%)	-50	-47	-46	-43	-39	-33	-28	-22	-12	-4	+1	-1
国内線 旅客数(人)	560,251	502,333	552,232	698,171	524,658	574,587	539,419	597,974	619,088	606,585	621,524	560,494
2019年比(%)	+1	-9	+5	+9	-8	-4	-2	-2	-6	+2	+10	-1

神戸	2022年 12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
国内線発着 回数(回)	3,058	2,812	2,755	3,014	2,788	2,845	2,744	3,059	2,919	2,897	3,090	3,084
2019年比(%)	±0	+16	+25	+21	+13	+8	+14	+19	+7	+4	+11	+9
国内線 旅客数(人)	279,040	253,485	263,184	316,365	262,558	290,845	275,898	290,661	313,651	296,352	312,315	289,069
2019年比(%)	-32	-25	-18	-6	-9	-14	+1	-4	±0	+2	+6	-3

※国内線旅客数は発着者数計、国際線旅客数は出入国者数計となります。

出典: 関西エアポートニュースリリースより作成

神戸空港就航都市路線別旅客数・利用率(2022年12月～2023年11月)

1月16日時点



路線	内容	12月	23年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
新千歳	旅客数(人)	41,390	40,249	44,358	50,793	37,584	48,405	51,985	54,162	55,414	53,866	50,225	43,196
	利用率(%)	67.1	66.7	81.7	80.5	62.1	77.1	85.0	86.3	91.3	88.4	79.2	70.4
青森	旅客数(人)	2,475	2,054	2,358	3,965	2,654	3,674	3,550	3,566	4,113	3,357	3,669	2,815
	利用率(%)	49.1	40.8	50.2	76.1	52.7	70.5	70.4	68.5	81.7	66.6	70.4	57.3
花巻	旅客数(人)	2,597	2,405	2,166	3,863	2,560	3,023	3,022	3,304	4,168	3,508	3,508	2,998
	利用率(%)	52.4	49.2	50.0	78.1	52.5	59.2	60.0	63.4	82.7	69.7	67.4	59.5
仙台	旅客数(人)	16,337	13,382	14,349	18,112	14,971	17,174	15,719	14,945	18,479	18,116	19,023	18,105
	利用率(%)	74.4	62.0	73.7	83.9	70.5	78.2	74.0	68.1	88.5	85.3	86.7	85.2
新潟	旅客数(人)	1,534	1,163	1,583	2,632	209	1005	-	-	1,305	-	-	-
	利用率(%)	33.3	26.1	33.7	62.7	62.2	85.5	-	-	77.7	-	-	-
茨城	旅客数(人)	22,316	18,885	20,508	26,489	21,642	23,741	22,066	22,222	27,430	23,125	25,985	25,650
	利用率(%)	67.8	58.0	69.0	80.5	67.9	72.1	69.3	67.5	86.1	72.6	78.9	80.5
羽田	旅客数(人)	78,852	72,983	69,384	79,594	70,589	73,973	69,628	70,971	75,956	74,804	78,029	75,378
	利用率(%)	87.9	82.0	87.4	88.6	81.1	82.5	79.7	79.1	88.0	86.0	86.1	87.0
松本	旅客数(人)	5,873	5,086	5,610	7,479	5,912	7,350	6,729	7,489	7,906	7,766	8,125	7,173
	利用率(%)	62.4	50.5	61.8	73.0	58.7	70.7	66.8	71.9	78.5	77.2	78.0	73.3
高知	旅客数(人)	2,912	2,607	2,409	3,190	2,178	2,731	2,154	2,592	3,149	2,666	2,638	2,458
	利用率(%)	58.1	52.5	53.8	64.5	43.9	52.5	42.7	49.8	63.5	52.9	50.7	48.8
長崎	旅客数(人)	20,425	19,793	20,435	25,737	22,612	24,397	21,535	22,591	24,780	25,593	26,987	25,011
	利用率(%)	62.0	60.8	68.7	78.2	71.0	74.1	67.0	68.6	81.9	80.3	83.3	78.5
鹿児島	旅客数(人)	15,784	14,181	14,804	15,665	13,997	16,745	14,390	14,167	16,500	17,183	18,301	17,471
	利用率(%)	71.9	65.7	74.7	71.4	65.9	76.3	67.7	64.5	83.2	80.9	83.4	82.9
那覇	旅客数(人)	53,879	48,445	53,212	63,904	54,825	54,986	52,787	59,661	59,058	52,309	60,584	55,432
	利用率(%)	70.6	63.8	77.2	82.3	72.7	69.9	75.1	72.5	83.5	70.9	79.4	75.1
下地島	旅客数(人)	8,955	6,586	7,905	9,299	7,936	7,482	8,039	8,584	7,796	8,487	9,318	8,224
	利用率(%)	81.6	60.0	79.8	84.7	74.7	70.5	78.3	78.2	84.7	82.7	84.9	77.4